

第21回ホメオパシー学術大会 JPHMA コングレス

まがごと
禍事(天災、災害、疫病、戦争)から学び、かしこく生き抜くホメオパシー

プログラム&抄録集



Dr. ラジ・クマー・マンチャンダ
デリー連邦直轄地政府 AYUSH 長官

伊籙 智哉
世界の食問題研究家

松尾 敬子
JPHMA 会長 / 大会長

由井 寅子
JPHMA 名誉会長

ジェフリー・スミス
遺伝子組み換え問題の専門家

東 昭史
フラワーエッセンス研究家



佐藤 文子
JPHMA 認定
ホメオパス



道繁 良
JPHMA 認定
ホメオパス



片上 敦子
JPHMA 認定
ホメオパス



水野 和子
JPHMA 認定
ホメオパス



工藤 聖子
JPHMA 認定
ホメオパス



佐井 明花
JPHMA 認定
ホメオパス



井手 麻子
JPHMA 認定
ホメオパス



笈田 祐友子
JPHMA 認定
ホメオパス



竹内 基幸
JPHMA 認定
ホメオパス



岡本 祥子
JPHMA 認定
ホメオパス



菊田 雄介
JPHMA 認定
ホメオパス



佐藤 美登里
JPHF 認定
ファミリーホメオパス



大阪 順子
ChHom 7 期
卒業



片山 里美
JPHMA 認定
ホメオパス



小林 且幸
日本豊受自然農
静岡函南



白井 天斗
日本豊受自然農
静岡函南



脇田 泰豪
日本豊受自然農
静岡函南



牧田 裕介
日本豊受自然農
静岡函南



澤田 美史
日本豊受自然農
北海道洞爺

会期: 10月3日(土) 9:15 開場 10:00~18:30 予定
10月4日(日) 9:15 開場 10:00~18:30 予定

主催: 一般財団法人 日本ホメオパシー財団
日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA)

共催: インナーチャイルドセラピスト協会、ファー・イースト・フラワーエッセンス協会、医療法人 豊受会、
農業生産法人 日本豊受自然農株式会社、農業生産法人 日本豊受自然林株式会社

開催概要

テーマ：「ホム禍事（天災、災害、疫病、戦争）から学び、
かしく生き抜くホメオパシー」
大会長：松尾敬子（JPHMA会長）

日程：2020年10月3日（土）

9時15分開場 10時開演～18時30分予定

2020年10月4日（日）
9時15分開場 10時開演～18時30分予定

会場：CHhom東京校

主催：一般財団法人日本ホメオパシー財団
日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）

共催：インナーチャイルドセラピスト協会
ファー・イースト・フラワーエッセンス協会
医療法人 豊受会
農業生産法人 日本豊受自然農株式会社
農業生産法人 日本豊受自然林株式会社

協賛：カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー
（Chhomシーエイチホーム）
ホメオパシー出版
日本ホメオパシーセンター総本部

● 基調講演

JPHMA名誉会長 CHhom学長
由井寅子ホメオパシー博士（両日）

● 海外来賓講演

テリー連邦直轄地政府 VCSH 長官
Dr. ラジ・クマー・マンチャンダ（1日目）

遺伝子組み換え問題の専門家
ジェフリー・スミス（2日目）

● 記念講演

フラワーエッセンス研究者
東昭史（1日目）

世界の食問題研究者
印鑰智哉（2日目）

● 症例発表・体験談・事例発表

JPHMA認定ホメオパス、同認定アニマルホメオパス、
JPHFファミリーホメオパス認定者、JPHFインナー
チャイルドセラピストや、認定教育機関、CHhom各コー
ス学生による学術発表を行います。ステージ発表（両日）
及びポスター発表（掲示期間10月2日（金）～11月1日（日））、
またホメオパスにかかっているクライアントの皆様の体
験談発表（両日）、ホメオパシーを応用した自然型農業を
実践する日本豊受自然農の事例発表（2日目）も行なわれ
ます。

● パネルディスカッション

「ホム禍事（天災、災害、疫病、戦争）から学び、
かしく生き抜くホメオパシー」

松尾敬子 大会長

由井寅子 名誉会長

印鑰智哉 氏

東昭史 氏

※2020年9月22日現在の予定です。講演内容や時間は、
変わることがございますのであらかじめご了承ください。

第21回大会 JPHMA コングレス プログラム

10月3日(土)大会1日目

時間	内容	発表者 (敬称略)
9:15	開場・受付開始	
10:00	開会セレモニー (開会宣言・国歌斉唱・大会長挨拶 他)	松尾 敬子 大会長、由井 真子 名誉会長、JPHMA理事
10:25	[会員症例発表 (大阪)] 摂食障害チューイングと尿路結石が改善し、新たな人生を踏み出したケース	佐藤 文子 (日本ホメオパシーセンター札幌西11)
10:35	[会員症例発表 (大阪)] 親の行動力とレメディと医師の慎重な断薬により寛解した4歳女児癲癇のケース	道繁 良 (日本ホメオパシーセンター島根安来)
10:45	[会員症例発表 (東京)] ジェム・ジェモ・フラワーエッセンス、鉱物と植物に秘められた癒やしの力/4つの症例~	片上 敦子 (日本ホメオパシーセンター練馬平和台)
10:55	[会員症例発表 (東京)] 老猫の慢性腎不全が改善したケース	水野 和子 (日本ホメオパシーセンター湘南平塚)
11:05	[会員症例発表 (東京)] 絶望からアルコール中毒と認知症症状になった義父の魂を救ったZENホメオパシーと言葉のレメディ	工藤 聖子 (日本ホメオパシーセンター東京渋谷駅前・千葉船橋本町・名古屋金山)
11:30	休憩	
11:50	世界に注目されるZENホメオパシー	JPHMA/CHhom
12:05	JPHMA、JPHF認定証授与式・記念撮影	新規認定ホメオパス、同アニマルホメオパス、ファミリーホメオパス、インナーチャイルドセラピスト、フラワーエッセンス療法士
12:35	お昼休憩	
13:50	[会員症例発表 (東京)] 子宮筋腫、構築性側湾症が改善されたケース	佐井 明花 (JPHMA認定ホメオパス)
13:55	[会員症例発表 (東京)] シェーグレン症候群、自己免疫疾患とホルモンの関係	井手 麻子 (日本ホメオパシーセンター山梨ハケ岳)
14:00	[海外来賓講演] インドにおけるホメオパシー医学の状況と新型コロナウイルス感染症対策について	Dr.ラジ・クマー・マンチャンド (デリー連邦直轄地政府 AYUSH長官)
14:45	[国内来賓講演] 非常時におけるフラワーエッセンスの可能性	東 昭史 (フラワーエッセンス研究家)
15:15	休憩	
15:40	豊受会員によるホメオパシー体験発表1	豊受会員
16:00	[基調講演] ^{まがごと} 禍事 (天災、災害、疫病、戦争) から学び、かしく生き抜くホメオパシー1	由井 真子 (日本ホメオパシー医学協会 名誉会長)
17:10	休憩	
17:35	トーク & パネルディスカッション1	松尾 敬子 大会長、由井 真子 名誉会長、ご来賓
18:15	閉会セレモニー (1日目総評)	松尾 敬子 大会長、由井 真子 名誉会長
18:30	1日目プログラム終了	
18:40	JPHMA年次総会 (約20分) ※JPHMA会員のみ	JPHMA会員

10月4日(日)大会2日目

時間	内容	発表者 (敬称略)
9:15	開場・受付開始	
10:00	開会セレモニー (国歌斉唱・大会長挨拶 他)	松尾 敬子 大会長、由井 真子 名誉会長
10:25	[会員症例発表 (札幌)] 乳がん再発の不安~アトピー・自閉症の息子と共に生きる希望を失いかけた魂が好転反応を乗り越え至った境地	笈田 祐友子 (日本ホメオパシーセンター札幌本部)
10:35	[会員症例発表 (名古屋)] トラウマを乗り越え、パワハラのある職場に復職できたケース	竹内 基幸 (日本ホメオパシーセンター名古屋本部)
10:45	[会員症例発表 (東京)] 潜在意識の悪感情が解放されると共に卵巣嚢腫が消失したケース	岡本 祥子 (日本ホメオパシーセンター東京吉祥寺御殿山)
10:55	[会員症例発表 (東京)] 20代女性 ZENホメオパシーで幸せに生きられるようになったケース	菊田 雄介 (日本ホメオパシーセンター東京総本部)
11:05	休憩	
11:25	[農業事例発表] 豊受自然農 御古菌・土づくりを通して感じること	小林 昌幸 (日本豊受自然農 静岡函南)
11:30	[農業事例発表] 大豆の栽培に携わっていく中で日々感じていること	白井 天斗 (日本豊受自然農 静岡函南)
11:35	[農業事例発表] 函南農場での生姜・里芋の一年~植付栽培、保存方法について~	脇田 泰豪 (日本豊受自然農 静岡函南)
11:40	[農業事例発表] 自分が豊受自然農に入ったきっかけ	牧田 裕介 (日本豊受自然農 静岡函南)
11:45	[農業事例発表] 大自然の恵み 洞爺ハーブ蒸留水と精油	澤田 美史 (日本豊受自然農 北海道洞爺)
11:50	[海外来賓発表] 食品に含まれるラウンドアップの破壊的影響、そして前代未聞の新GMOによる生存の危機	ジェフリー・スミス (遺伝子組み換え問題の専門家)
12:40	お昼休憩	
13:45	[会員症例発表 (札幌)] ホームキットの活用 スズメバチに刺された際のレメディでのケア	佐藤 美登里 (JPHF認定ファミリーホメオパス)
13:50	[会員症例発表 (名古屋)] 心室中隔欠損が治癒し、疲れやすさが改善した中学生のケース	大阪 順子 (CHhom7期卒業)
13:55	[会員症例発表 (東京)] 医食農同源の暮らしが自己治癒力を高める可能性	片山 里美 (日本ホメオパシーセンター石狩当別)
14:00	[国内来賓講演] 健康・環境を破壊する遺伝子組み換えの最新バージョン「ゲノム編集」は何をもたらす? 一種苗法改定は何を意図しているか、未来を作る自然農法はどう拡げる?	印 鑰 智哉 (世界の食問題研究家)
15:00	[大会長講演] 様々な疾患症状の改善における肝機能の関りについて	松尾 敬子 (日本ホメオパシー医学協会 会長)
15:40	休憩	
15:55	豊受会員によるホメオパシー体験発表2	豊受会員
16:05	[基調講演] ^{まがごと} 禍事 (天災、災害、疫病、戦争) から学び、かしく生き抜くホメオパシー2	由井 真子 (日本ホメオパシー医学協会 名誉会長)
17:15	休憩	
17:35	トーク & パネルディスカッション2	ご来賓、松尾 大会長、由井 名誉会長
18:15	閉会セレモニー (大会総括挨拶、閉会宣言、ホメオパスの歌)	松尾 大会長、由井 名誉会長、JPHMA理事
18:30	全プログラム終了	

※タイムスケジュール、プログラム内容、講演者等は変更になる場合がございます。また、発表者等の最新情報は、随時更新して参ります。あらかじめご了承ください。

大会長挨拶

日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）
会長 松尾敬子



皆様こんにちは。今年もJPHMAコンGRESの季節を迎えようとしております。会員の皆様におかれましてはこの一年、様々な症例改善の分野で努力・研鑽を積み、多くの悩めるクライアントの方々への手心えある一助として貢献されて来られたことと拝察致します。コンGRESはこの一年の成果を皆様と共有し、より多くの重要で実践的な情報を得るための貴重な場であります。例年思うのですが、ケース症例も多くあり、難病といわれるケースも果敢に挑戦して治癒に結び付けていることには目を見張る

ものがあり、とても素晴らしいことであると思っております。ホメオパシーは誰でも使えて、しかも自然治癒力を上げて自身の根本から治癒できる、素晴らしい療法です。これを自分自身に使えるのみならず、多くのクライアントの方の治癒にも役立てられることがこの療法の醍醐味であります。私は日ごろクライアントに関わりながら、いつもそう感じております。

さて、私たち日本チームは毎年海外のコンGRESにも参加しておりますが、そこで感じるのは由井寅子名誉会長に育てられた日本のホメオパシー能力の高さです。海外のホメオパスの方たちとともに改善症例を報告し、内容を共有していくのですが、日本チームは毎回、海外の著名な先生方からも多くの賞賛を頂いております。名実ともに日本のホメオパシーが世界で認められていることを改めて実感しております。現在、世界各地の人々が新型コロナウイルスに悩まされ、様々なストレスに苛まれた生活を余儀なくされています。恐怖心を煽り、外出は必要最低限にとどめて…、三密を避ける、必ずマスクをしなければ…、こうでなくてはいけない等。こ

れを進めていくと脳の大事な松果体が衰退していきます。第三の目と言われる松果体はひらめきや直感、何か課題を持った時、それを察知して、修正し、良い方向に向かわせる能力を発揮します。この大事な松果体を衰退させてまで何をしようとしているのでしょうか。こうした環境の中だからこそ、心、体、魂に呼びかけるホメオパシーのレメディーが必須になります。JPHMAコンGRESは、ホメオパシー普及を目的とし、ホメオパシー専門家に留まらず、一般公開された形で開催されています。

この度のコンGRESに参加をされている皆様をはじめホメオパシーに関係されている方には是非ホメオパシーの素晴らしさを多くの方に知らしめて頂くことを切に願っております。そうした意味からも、毎年行われるコンGRESの学術発表は会員の方たちよりもとより、参加者の方々の想いと力が集うことで、その開催の価値は相乗的に高まって参ります。

末筆になりますが、皆様にはこのたびのコンGRESへのご参加を心からお待ちしております。今年のコンGRESも例年にも増して素晴らしいものになるよう、一緒に作り上げてまいりましょう。

名誉会長挨拶

日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）

名誉会長 由井寅子



第21回日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）の
 kongressが、10月3日（土）、4日（日）に行われます。
 今回は、「禍事（まがごと）（天災、災害、疫病、戦争）
 から学び、かしこく生き抜くホメオパシー」というテ
 ーマになっております。世の中の流れはコンサートや
 フェスティバル、映画などの娯楽ができない状態で、
 行楽地に行ってもマスクしないといけない、家族でも
 一人ひとりが離れないといけない雰囲気満ちていて、
 これは戒厳令かなと思う程、重々しい雰囲気世界
 中漂っています。国がこのような政策をとるなら、私
 たちは一人ひとりが、自らが努力して自分や家族、仲
 間を幸せにする方法を見つけていかなければなりません。
 コロナ禍の中、嘆いてばかりいてもしかたありません。

せん。このような世の中が暗くなっているときだから
こそ、天照様が天岩戸にお隠れになったときに、アメ
ノウズメが青々としたヒカゲノカズラ（ヒカゲノカズラ）を首に巻
いて裸で踊り、周りの神々を和ませたように、どうし
たら心に喜びを感じ、幸せに生きていけるか、また周
りの人を幸せにしていけるかを考えるときだと思っ
ます。今こそ皆さんの底力が問われています。

そもそも病原体とは、はるか昔から共存しており、
私たちの免疫が低下したとき、あるいはインチャと共
鳴したときに、ウイルスや細菌が増殖し、その結果病
原性を持つようになることで、恐ろしい病原体
がいるというのがそもそも正しくありません。実際問
題なのは、免疫力が低下することなのです。外側にい
る病原体をやっつけようという発想が間違っています。
ましてインフルエンザウイルスより弱い新型コロナウ
イルスを怖れる必要はないのです。免疫力が上がるよ
うに、よい食事をし、心朗らかに、この世的価値観に
あまりとらわれず、人を裁かず、自分を裁かず、生か
されていることに感謝し、信仰心をもって生きていた
ら何を恐れる必要がありません。現代医学はウイ
ルスが悪者と考え、メディアもその路線で恐れを煽っ
ています。人口削減計画の一つとして強制予防接種に
もつていこうとしているのかもしれない。また、コ
ロナ禍で多くの商店が先々の見通しも見えず閉めるし
かない中、新型コロナウイルスを煽り大金を手にした人々は誰
なのかを知り、その人たちの行動を観察し続けること
が必要だと思います。

病原体は私たちの健康を脅かす恐ろしいものと考え

ているため、ほとんどの人がマスクをつけています。マ
スクを付けていない人は非国民と言わなければかりの白い
目で見られます。マスクをつけると目だけが見え、口
元が見えませんが、笑顔がなくなりました。
実際は笑顔でも目だけではそれが分かりません。殺伐
とした世の中になり、人のことがますます信じられな
くなります。人と会っても、新型コロナウイルスにかかっ
てるんじゃないかという猜疑心が出てきて、ますます人
間関係が希薄になります。この世界的な猜疑心が、世
界的なバツタの大量発生を引き起こしていることを農
業シンポジウムで伝えました。私の中では、病気でも
ないのにマスクしている人は、泥棒など顔を隠さねば
ならない事情のあるやましい人に見えます。一方、マ
スクをしている子どもを見ると、成長中なのに酸欠状
態になったり、マスク内の菌の繁殖で肺炎になったり
しないか心配になります。人々と密に接触し、自然と
触れ合い、ビタミンDを作ってくれる太陽の光を一杯
浴び、毎日を謳歌してほしいと願います。

消毒というのも問題です。皮膚や粘膜に常在菌がい
るので、病原体や悪玉菌が広がらないようになってい
るからです。私たちは自分の自己治癒力を信じられず
恐怖になるのか、真実を見抜き平安に元気で生きるか
のお試しだと思います。

人を疑い、信頼し、尊敬することのできないこの状
況では、戦争が起こってもおかしくありません。不断
に恐怖になる必要はありませんが、何かあったときの
ために、備えておくことはとても大事なことでありま
す。実際、災害、戦争など、有事のときに必要なのは

食料であり、水であり、医療であり、いかなるときにも希望と信仰心をもって生き抜こうとする強い心です。

災害や有事のときこそ、自存自衛が問われるものです。自分でできる医療としてはホメオパシーのホームキットを使い、心も体も健康になりましょう。食べ物、各々がいつでも自分で敵をたて、農作物を作れる技術を持ちましょう。そのためにも安全な自家採種の種を常にバッグの中に入れておきましょう。そして、実際に災害など有事の際に動じないだけのしつかりとした強い心を育ておくこと、これらが有事への備えにとっても大事になると思います。

今回のコンGRESでは、全国で活躍するJPHMA認定ホメオパスによる体、心、魂まで治療に導くホメオパシーの治癒症例の発表のみならず、有事、災害への経験なども含めて、お話しする大会になり、ホメオパシーの専門家だけの学術イベントではなく、ライブ会場と共に自宅聴講可能なオンライン配信イベントとして一般公開の形で開催されます。

ホメオパシーには、それぞれに解決法があります。ぜひこのコンGRESに参加され、これからどう生きたいのかを一緒に考えませんか。限りある命だからこそ、毎日毎日が大切なのです。

これを機会に、皆さまが、体も、心も、考え方も、生き方も健康になっていただきたい。そのためにもっとホメオパシーを使っていたきたい。不安に翻弄されることなく、今を幸せに思う心を養い、未来に備えましょう。このような言葉を合言葉にして、ともに助け合い、ともに協力し、ともに生きて行くことではありませんか。

基調講演（両日）

■ まがごと 禍事（天災、災害、疫病、戦争）から学び、かしこく生き抜くホメオパシー

日本ホメオパシー医学協会（JPHMA）
名誉会長 由井寅子



私は、まがごと 禍事（疫病、災害、事故、怪我、飢饉など）に遭われた人がどのようにして乗り越えていくかを症例とともに発表する予定です。

禍事を乗り越え、苦しみをなくしていった実例からは、学ぶことが多くあります。また、植物からも学ぶことが

できます。今年の一カ月以上つづく長雨の冷夏でも、植物たちは8月の力強い太陽の光を浴び、しつかり育っています。その力強さに感銘し、感謝せざるをえません。事故が起きて大怪我をし、一命をとりとめたものの不自由な体になった人が、懸命に生きようとする姿に自然と手を合わせたくなります。苦しみを受け入れ、それをよしとして、すがすがしく生きる姿に自然と頭（こゝろ）が下がるのです。

コロナ禍があつて、多くの人々が不安でお先真っ暗になったことでしょう。病気の不安、経済の不安、政治の不安、マスクしないことへの不安、検査して陽性になったら村八分に合う不安、人前で咳もできない、世知辛い世の中になってしまいました。人々の口元はマスクで隠れ、ゆえに笑顔も消えてしまいました。しかし一方で、普段体験できないようなことを色々と体験することができましたね。そのなかで不安になることがあつたら、その心を見つめて癒していくことで、この禍事の時代をよしとして生きることが出来ます。そのためにも、一人ひとりが謙虚になつて、自然に沿った生き方を始めることが大切です。私たちは今までたくさんの人の発明によって、たくさんのお金を頂きました。働けばお金持ちになり、そのお金で何でも買えた時代、その時代が終わりに近づきつつあるのです。今一度自然に沿った生き方とはどういうことを深く考え、禍事の中でその不便さを受け入れ、感謝の心を養い、幸せに生きられるかが問われているのだと思います。神さまが人間の意識を変えるために必要だから、その禍事が起こっているのであり、

禍事からは多くの事を学べます。ピンチはチャンスなのです。

これから日本では、人口削減のために、新型コロナワクチンの強制接種も行われそうな雰囲気です。また、日本人の食を破壊する一貫として、種苗法の改正案が10月ごろに通過しそうです。これが通ると、農家の自家採種が限定され、将来的に、自然な種が大手企業に独占され、結果として自然な種が急速に姿を消し、遺伝子組み換え種などしか残らず、私たちが病気になるような穀物や野菜を食べるしなくなる可能性もあります。

私たちが賢くなつて、病気や病原体を恐れなくなるまで、また、私たちが自然の種の大切さ、食べもの大切さを心からわかるまで、そのような禍事は生じざるを得ません。人は苦しみが我が身に降りかかり、現実のものとならないと、意識を変えようとはしないからです。

ここに禍事から学ぶ意味があります。禍事をおこす荒神はそのような役目として存在し、それもまたは神の計らいなのです。どこまでも私たちが謙虚になり、神仏、自然、人々、親・先祖、全てに感謝し、尊重するという信仰心を取り戻せるように、禍事をおこしてくれている親心なのです。

このようなことをケースや体験談を入れ、発表したいと思います。10月3日、4日は、JPHMAの第21回コングレスに皆で参加し、禍事を乗り越え、清く、ほがらかに生きていきたいと思います。

◆プロフィール◆

ホメオパシー名誉博士／ホメオパシー博士 (Hon. Dr. Homeo. Doi, Homeo.)、JPHMA名誉会長

英国ホメオパシー医学協会 (HMA) 名誉会員

英国ホメオパス連合 (ARH) 認定ホメオパス

CHomom学長、農業法人 日本豊受自然農(株)代表取締役

昭和28年生れ、愛媛県出身。日本にホメオパシーを広めた第一人者。英国で潰瘍性大腸炎に倒れ万策つきたと観念した時、ホメオパシーと出逢い症状が完治する。その後、英国でホメオパシーを学び、日本人で初めて英国でホメオパシーを学び、日本人で初めて英国ホメオパシー医学協会 (HMA) のホメオパスに認定される。帰国後は日本でのホメオパシーの普及に尽力。ホメオパシーの実践とハーネマン研究で海外から高い評価を得て、21世紀のホメオパシーを牽引する指導的なホメオパスとして国際的にも活躍している。とりわけ発達障害や自己免疫疾患など現代医学で治療が難しい病気での治療症例も多く、体・心・魂を一体に癒し治療に導く「ZENホメオパシー」を確立し、インナーチャイルド癒しや自然型農業から始まる食・栄養の改善、霊性向上までテーマに幅広く活躍している。

ホメオパシー学術誌 The Homeopathic Heritage International B Jain Publishing House の国際アドバイザー。著書、監訳、翻訳書、DVD多数。著書は英語、ドイツ語、韓国語などにも訳されている。

大会長講演 (大会二日目)

■様々な内臓疾患の改善における、肝臓機能の関わりについて

日本ホメオパシー医学協会 (JPHMA)
会長 松尾敬子



現代人は大変多くの疾患を抱えて悩み、苦しんでおります。例えば、糖尿病・高血圧・癌・骨の問題・目の問題・慢性疲労・ストレス他等、あるいは食生活の問題 (添加物・農薬) や薬害等です。個々の相談会を進めていくとその多くには隠れていた肝臓の問題が関わっており、肝機能

をケアすることによってさまざまな疾患症状の改善が図られています。このたびは、主訴の改善過程において肝機能の改善を図っていくことがクライアントにとって大事なキーポイントの一つになっていることを報告します。

◆プロフィール◆

埼玉に拠点をおき、日本ホメオパシーセンターでの健康相談の活動に加え、埼玉を中心に、多くのホメオパシー講演会を開催し、ホメオパシー普及に尽力する。多くの臨床経験からChhomの講師となり、後輩の指導にあたる。多くのクライアントや学生からも信頼も厚く、2018年1月の第18回JPHMAコンGRESにてJPHMA設立以来20年会長を務めてきた由井寅子現名誉会長を引き継ぎ、第2代JPHMA会長を務める。

日本ホメオパシーセンター埼玉日高 センター長

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー(CHhom)

講師マテリア・メデシア講義他担当

ホメオパス強化学習講師。

JPHMA認定ホメオパスNo.0153

JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0012

ZENメソッド修得認定No.0007

英国ホメオパシー医学協会(HMA) 認定ホメオパス

No.11

海外来賓講演①(大会二日目)



■インドにおけるホメオパシー医学の状況と新型コロナウイルス感染症対策について

(デリー連邦直轄地政府 AYUSH 長官)

Dr. Raj Kumar Manchanda

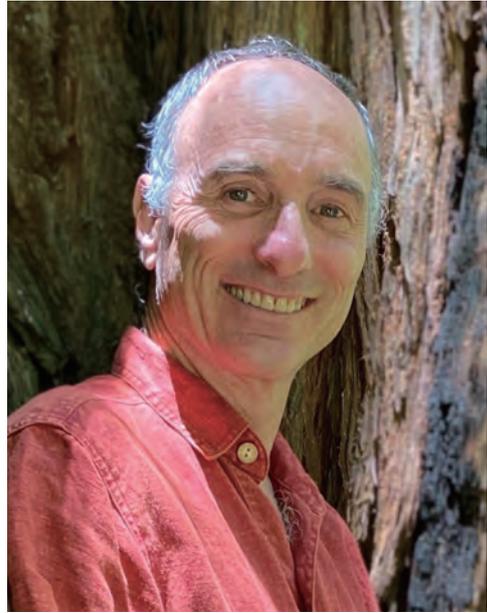
インドは世界ナンバー1のホメオパシー大国です。人口の半数がホメオパシーに親しみ、国家が伝統医学、統合医療の柱としてホメオパシー医学を認めているため、ホメオパシー医学が健康・医療面でも大きな役割を果たし、ホメオパシーが有効であるエビデンスについても欧州、ブラジルとともに多くの研究成果をあげています。(URL)マンチャンド氏は、インド政府 AYUSH 伝統医学省ホメオパシーリサーチ中央評議会(CCRH

政府研究部門)の長として、長年にわたりホメオパシーの研究開発と普及、国際協力などにおいて多大な貢献を果たしてきました。2005年、由井寅子名誉会長がインド訪問以来、日本、JPHMAとの交流も長く、3度の来日に加え、インド政府 CCRH と JPHMA は2度共同の学術大会もインドにて開催しています。今回の講演では、新型コロナウイルス問題など感染症流行における未曾有の世界的危機に対して世界のホメオパスが直面しているテーマについて講演いただきます。様々な国でのホメオパシーに対する公的需要の増加とホメオパシーの存在、インド中のホメオパシー医による COVID-19 患者の予防と治療のための努力についてお伝えします。そのため世界のホメオパスは COVID-19 患者の予防と治療のために質の高い研究志向を持つことが重要である点などをお話しいただく予定です。ホメオパシー大国インドのホメオパシー医学のリサーチ活動については、マンチャンド博士が長年長官を務めた CCRH が映像にまとめられており、日本語版を JPHMA が共同制作しています。

◆プロフィール◆

インド政府ホメオパシー研究中央評議会(CCRH)元長官、ホメオパシー医薬品諮問委員会会長、ホメオパシー中央評議会会員。Dr.マンチャンドは、ホメオパシーにおいて、35年以上の経歴がある。国内外のカンファレンスでは評判の良いスピーカーで、科学ジャーナルに多くの論文を発表。Textbook of Dermatology for Homeopaths (ホメオパスへの皮膚科学教本)を執筆。著名な学者であり、臨床家である。

海外来賓講演②（大会二日目）



■食品に含まれるラウンドアップの破壊的影響、そして前代未聞の新GMOによる生存の危機

（遺伝子組み換え問題の専門家）

ジェフリー・スミス

ドキュメンタリー映画「遺伝子組み換えルーレット」を制作し世界をNON GMOの潮流へ導いたジェフリー監督に遺伝子組み換え（GM）食品やその栽培とセックトで使われる除草剤ラウンドアップ（グリホサート）による健康リスクについて解説いただきます。加えて、今回は、ゲノム編集技術による新世代の遺伝子操作がもたらす人類滅亡も招きかねない差し迫った危機について、ジェフリー監督とそのチームによる詳細調査から警告します。

発表の中ではラウンドアップ（グリホサート）の使用と摂取の増加と並行して増加した疾患について、また食をオーガニックに変えることでこれら疾患の健康回復への希望と解決策についてもお話しいたします。なお、日本ではほとんど報道されませんが、米国のラウンドアップ関連の訴訟により、世界の遺伝子組み換え産業と農業が存続できないほどの大問題になっています。しかし無知・無関心な日本がこれらのGMOを大量輸入し、バイオメジャーとGM農業を支え健康問題に苦しんでいます。コングレスでは世界のGMO最新情報をシェアいただきます。

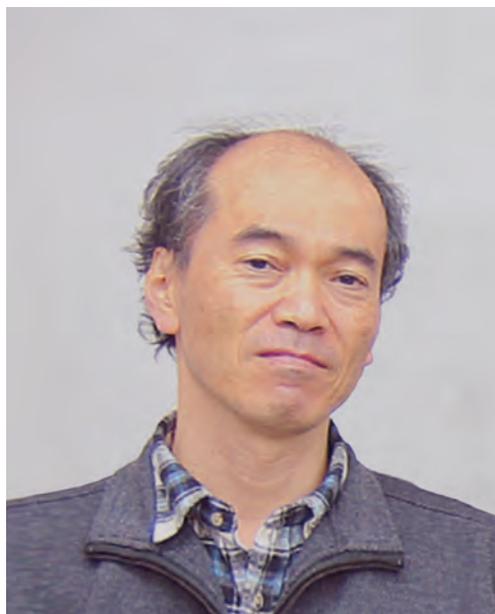
とよかけチャンネルで公開中、6月のシンポジウムで放映された「米国 食の安全と健康の最新事情」ジェフリー・M・スミス監督への由井寅子大会長インタビューもあわせてご覧ください。

◆プロフィール◆

世界規模で転機をもたらすコミュニケーションを提供。ベストセラー作家、受賞歴のある映画製作者、著名な講演者、見識あるインタビュアー。ジェフリー氏は、

the Institute for Responsible Technologyの創立エグゼクティブディレクター、GMOラウンドアップからの癒しサミット、90日間の生活スタイル・アップグレード、GMOスピーカー・トレーニング、そしてこれから設立されるGMO学位のクリエーター。彼は、インスピレーションを与える基調講演者及びインタビュアーとして人気があり、「Live Healthy Be Well（健康的に暮らして、調子よく行く）」ポッドキャストを主催。

国内来賓発表（大会二日目）



■「健康・環境を破壊する遺伝子組み換えの最新バージョン」「ゲノム編集」は何をもたらす？
―種苗法改定は何を意図しているか、未来を作る自然農法はどう拡げる？―

（世界の食問題研究家）

印鑰智哉

遺伝子組み換え作物は南北米大陸の環境を破壊し、遺伝子組み換え食品は世界の人びとの健康を害してきましたが、人びともその被害を知り、その拡大は止まりつるあります。その農業を支えてきたモンサント（現バイエル）の除草剤ラウンドアップに対しても多くの人たちがそ

の被害を訴え、欧米のスーパーでは個人向け販売を停止するところが多くなってきました。

いよいよこの問題から解放されるその時が来るのが期待されたわけですが、新たな技術を使って、この遺伝子組み換え農業の存続が図られようとしています。それがこの「ゲノム編集」になります。

「ゲノム編集」は遺伝子などの研究にはとても有効なツールですが、従来の遺伝子組み換えと同様に、生命には大きな影響を与えてしまうため、研究室の外に出してはいけない技術だといわざるをえません。

しかし、日本政府は昨年10月、安全確認の実験もなく、「ゲノム編集」による作物の栽培、食品の流通を表示もなく認めてしまいました。その結果、遺伝子操作されているかどうか、タネを買う時も食品を買うときも農家も消費者も知ることができない状態に置かれています。

おりしも、今、日本政府は農家の登録品種の種苗の自家増殖をすべて一律に許諾制にする種苗法改正を行おうとしています。今後の日本の農と食は今決定的な時期にきています。将来の世代のためにわたしたちが何をやるかが問われています。

「ゲノム編集」食品の何が問題かを考えます。そして、現在の野放し状況を変えることはどうやればできるのか、考え、実行していきましょう。

◆プロフィール◆
アジア太平洋資料センター(PARC)、ブラジル社会経済分析研究所(IBASE)、Greenpeace、オルター・トレード・ジャパン政策室室長を経て、現在はフリーの立場で世界の食と農の問題を追う。ドキュメンタリー映画『遺伝子組み換えルーレット』(2015年)、ドキュメンタリー映画『種子ーみんなのもの? それとも企業の所有物?』(2018年)いずれも日本語版企画・監訳。『抵抗と創造のアマゾンー持続的な開発と民衆の運動』(現代企画室刊、2017年)共著で「アグロエコロジーがアマゾンを救う」を執筆。

国内来賓発表(大会二日目)



■非常時におけるフラワーエッセンスの可能性

フラワーエッセンス研究家
東昭史

フラワーエッセンスは1930年代に開発されました。開発者であるエドワード・バッチは、第一次世界大戦から世界恐慌の時代のイギリスで、医師として活躍していました。このような時代背景から生まれたフラワーエッセンスには、非常時において役立つような特質があるのではないのでしょうか。バッチ以来、フラワーエッセンスが非常時にどのような使われ方をしてきたか。また、日本のフラワーエッセンスにはどのような可能性があるのか。非常時におけるフラワーエッセンスの活用に関する研究の方向性を示します。

◆プロフィール◆
東京都出身。カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー(CHom)講師。バッチ博士のフラワーエッセンスや、ベイルー・フラワーエッセンス、ファー・イースト・フラワーエッセンスを主に研究。著書『ファー・イースト・フラワーエッセンスガイドブック』(ホメオパシー出版)、『バッチフラワー花と錬金術』(東京堂出版)、『心と体にやさしい薬草入門』(ホメオパシー出版)他。

ステージ口説発表の部

1日目

●症例発表(1日目①)

■摂食障害チユーイングと尿路結石が改善し、新たな人生を踏み出したケース

佐藤 文子(さとう あやこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0636
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0088
ZENメソッド修得認定No.0064
HMA認定ホメオパスNo.1580
日本ホメオパシーセンター札幌西11
RAH11期

・ケース概略

グルメ全盛の今日、一方で過食症や拒食症のような食べることにまつわる問題「摂食障害」が増えていきます。今回は摂食障害の一つ、チユー



イングのケースを発表させていただきます。摂食障害と尿路結石、これらは一見まったく別の問題のようですが、その根っこには共通の原因がありました。クライアントさんが問題の核心に気づき、向き合うことで、10年続いていた

症状が改善し、さらには心のありようも変化して、新しい出会いや生き方が開けていきました。ホメオパシーでは「病気はお知らせ」と考えます。症状は恐ろしい悪者などではなく、大切なメッセージを運んでくれる使者なのです。本ケースを通じて、心と体がいかに密接に結びついて私たちにメッセージを送ってくるのかをお伝えしたいと思います。また、ホメオパシーで慢性症状が改善に向かうと、その人は本来の輝きを取り戻し、自分らしく生きるようになります。その素晴らしさを本ケースから感じていただければ幸いです。

・コングレスに寄せて

21回目となるJPHMAコングレス開催、おめでとうございます。コロナ禍によって想定外の大変化だらけの今年、コングレスも東京と各拠点を中継して行われることとなりました。それによって、インターネットを通じて誰もがこの大会に無料参加できるようになったのは実に画期的なことだと思います。これまで、遠くて会場へ行けなかった方も、自宅を空けられなかった方というも、どうぞ皆さん、ご自宅や好きな場所からネット参加してください。まわりの人にもお勧めしてください。気軽にホメオパシーの実態に触れてみてください。このコングレスを機に新たにホメオパシーと出合っ、その底力と可

能性に魅了される人がうんと増えるといいなあ〜!と願っています。不穏なコトがたくさんあるこの世界で、自分や大切な人・動物を守り自分らしく生きていくために、ホメオパシーは誰にとってもパワフルに役立つツールとなるからです。

参加者の皆がそれぞれの場所で、物理的に離れてはいても熱い思いを共有し、素晴らしい大会を皆でつくり上げましょう。

●症例発表(1日目②)

■親の行動力とレメディーと医師の慎重な断薬により寛解した4歳女兒癲癇のケース

道繁良(みちしげりょう)

JPHMA認定ホメオパスNo.0742
HMA認定ホメオパスNo.1602
日本ホメオパシーセンター島根安来
RAH UK12期

山陰を中心にホメオパシー健康相談、ホメオパシー勉強会、坐禅指導を行う。ホメオパシーとインターチャイルド癒しに仏教を取り入れた独自のスタイルから仏道ホメオパスと名乗り活動。

・ポイント紹介

小児癲癇、熱性痙攣複雑型（24hに何度も起こす）を患う4才女児のケース。「何がわが



子を癲癇にしてみましたのか？」疑問を持った両親が自ら情報を集め、減薬指導で有名な東京の医師にまで島根から尋ねた親の行動力に心を打たれました。その医師の薦めでホメオパシーへと結びつきました。抗癲癇薬を断薬したい親の希望を叶えるためには発作を抑える必要があります。クライアアントの成育歴から癲癇の原因になったと思われる物質のレメディーと発作の特徴に合わせたレメディーによりほぼ完全に発作を抑えることができ、主治医の慎重な減薬スケジュールで無事断薬できたケースを発表させていただきます。インターネットを使って全国、海外からご参加いただけるコロナ禍対応の新時代の学術大会です。ぜひ一人でも多くの方にホメオパシーの可能性を見ていただき同様の病気でお困りの方にホメオパシーの恩恵が届くことを願っています。

●症例発表（1日目③）

■ジエム・ジエモ・フラワーエッセンス、鉱物と植物に秘められた癒やしの力／4つの症例

片上 敦子（かたがみあつこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0179

JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0094

ZENメソッド修得認定No.0183

HMA認定ホメオパスNo.1304

日本ホメオパシーセンター練馬平和台

RAH6期

フィットセラピーが注目を浴び、CHhomdではフィットセラピスト養成コースがスタートしました。ポリクレストの植物のレメディーをはじめ、日本のジエモ&フラワーエッセンスなど、大地のエネルギーを吸収した植物の癒しの力には目をみはるものがあります。樹のつぼみに蓄えられたパワー、そして開花した花の持つエネルギー。それぞれ種類は違いますが、人間の魂を優しく包み込む植物特有の繊細な癒しのエネルギーです。一方で、古代より神秘のパワーが宿るとされてきた宝石のジエムレメディー。地球の大地そのものである鉱物エネルギーは、強い主張で人のチャクラに働き、揺さぶりをかけて心身に気づきを起こさせます。今回はZENメソッドを軸に、鉱物であるジエムレメディー

の鋭いパワーと、繊細な植物エッセンスのパワーが織りなす相乗作用で、治癒力がアップした4つのケースをご紹介します。



・21回記念大会にむけたメッセージ

コロナ禍で開催会場や開催方法の変更はありましたが、それにより逆に多くの方にホメオパシーを知っていただく機会に恵まれたのではと思います。本当の健康という宝を、多くの方と分かち合えるコンGRESを今年も楽しみにしています。

●症例発表（1日目④）

■老猫の慢性腎不全が改善したケース

水野和子（みずのかずこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0876

JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0118

ZENメソッド修得認定No.0226

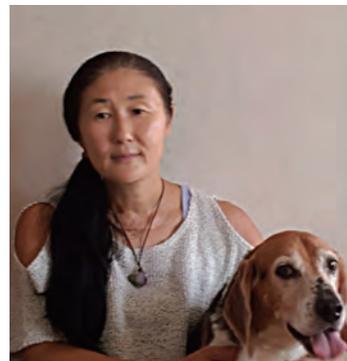
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0008

HMA認定ホメオパスNo.1642

日本ホメオパシーセンター湘南平塚

CHhom1期

各ペット保険を取り扱う保険会社の猫の保険金請求が多い疾患の統計結果では泌尿器疾患が多く、某ペット



保険大手の昨年度の統計結果では慢性腎臓病（腎不全含む）が最も多とのこと。（2019年調査結果）年齢別では高齢になるほど、腎臓病の比率は高くなります。生活を共にする動物の中で多くを占めるのは犬猫であり、医療の充実？に伴い、人だけではなく、犬猫の寿命も伸びています。猫の腎臓機能低下を招く要因として塩分不足（ミネラル不足）が大きく起因しています。これに関しては欧米の獣医学の論文でも発表されています。高齢猫における頻発疾患である慢性腎不全および、それに伴う口腔内の症状および、その他の症状を塩の摂取とTBR、バナジープロトコル、猫のためのホメオパシー（著ジョージ・マクラウド）を用いZENホメオパシーを応用し、改善への手助けが出来ることの一例としてお伝えすることでホメオパスの参考になればと思っております。

第21回は30回目に向けての新たな1回目となります。2020年、新型コロナや自然災

害によって人だけでなく命あるものすべてへの自然界からの何かしらの発信（警告なのかもしれません）、その中で、生きとし生けるものに対し、個々がどう向き合うかを問われているのかなあと。ホメオパシーはその種、個々が各々と向き合って自分らしく生きるためのスイッチになる一つの手法です。紀元前からの基本論理に基づき、日本においても民間療法として続いてきた療法です。今大会がJPHMAの新しい一歩になることになりま

●症例発表（1日目⑤）

■絶望からアルコール中毒と認知症症状になった義父の魂を救ったZENホメオパシーと言葉のレメディ

工藤聖子（くどうさとこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0784

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0094

日本ホメオパシーセンター東京渋谷駅前

千葉船橋本町・名古屋金山

RAH13期

地元の名士として活躍していた義父は、ある出来事から絶望し、ご飯も食わずお酒とタ

バコばかりの生活となり、ついに倒れ入院。話も噛みあわなくなり、「認知症かもしれない」との連絡を受け、急ぎよ私は病院へ向かいました。三日三晩、病室で義父に付き添い、ホメオパシーでできるあらゆることをしたほか、私が気づいた言葉のレメディをかけ、困難を乗り越える方法を伝えました。その結果、義父の認知症の症状はすっかり良くなり、気を少しずつ取り戻していったケースをご紹介します。

今大会は、全国で活躍するたくさんのホメオパスの素晴らしい症例を見ることができ、海外の著名な先生方のお話も聞ける、一年に一回のとても貴重な機会です。今年は初めて無料で参加することができ、自宅配信も行われます。先行き不透明で困難な時代ではありますが、ホメオパシーにはその困難を乗り越える解決法があり、希望を持つことができます。一人でも多くの方のご参加を心よりお待ちしております！



●症例発表 (1日目⑥)

■子宮筋腫、構築性側湾症が改善されたケース

佐井明花(さいめいか)

JPHMA認定ホメオパスNo.1023

ZENメソッド修得認定No.0458

Chhom7期

本ケースは、生理が長引くことで検査を受けたら子宮筋腫が見つかり、医師から手術を勧められたことがきっかけに相談会を始めた。子宮筋腫は一回目の相談会で改善され、2回目の相談会から彼女の持ち病である構築性側湾症の改善に取り組み。レメディーを取り始めて、好転反応で12日間の高熱に耐え、その後の更に5日間の高熱を乗り越えた彼女の自然治癒力の高さに喜び合いながら、そばで見えていたご主人からの一言で嬉しさ満開の彼女の笑顔で、幸せのお裾分けをもらったケースです。今回、人生初の学生の時に取ったケースで、未熟な部分もたくさんあるにも関わらず、第21回JPHMAコンGRESSで発表の機会をいただき、心から感謝致します。できる事を精一杯頑張りますので、よろしくお願致します。



●症例発表 (1日目⑦)

■シェーグレン症候群、自己免疫疾患とホルモンの関係

井手麻子(いであきこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0983

ZENメソッド修得認定No.0393

日本ホメオパシーセンター山梨八ヶ岳

Chhom5期生

9年前からドライマウスの症状がはじめ、5年前、病院にてシェーグレン症候群と診断されたクライアアントさんが、4回の健康相談で改善した症例です。乱れたホルモンバランスをホメオパシーで整えることによって、慢性疾患のみならず、自己免疫疾患が改善される可能性を感じることができると思います。インターネット配信により、自宅での参加が可能になった『第21回のコンGRESS』を通して、ホメオパシーを愛する仲間の輪がさらに広がることを期待しています！



2日目

●症例発表 (2日目①)

■乳がん再発の不安〜アトピー・自閉症の息子と共に生きる希望を失いかけた魂が好転反応を乗り越え至った境地

笈田祐友子(おいたゆうこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0936

JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0132

ZENメソッド修得認定No.0345

日本ホメオパシーセンター札幌本部

Chhom4期

幼い頃から他者からも家族からさえも軽んじられ、また、アトピー性皮膚炎をもつ自閉症の息子と共に生きる中でも他者からの心ない言葉を数々受けてきたため、乳がん再発への不安も抱えながら未来への希望を失いかけた女性。眠れないほど痒がる息子の肌を治してあげたいとホメオパシーのクリームを塗った途端、好転反応が出たのは愛に溢れた母の手の方でした。あきらめずに好転反応



を乗り越えた女性の真摯で勇敢な魂に感謝と敬意を持って発表させていただきます。JPHMA AコンGRESも21年続いたのですね、由井名誉会長はじめフロントランナーのホメオパス、関係者の皆様、ホメオパスユーザーの皆様の愛、信念があつてこそです。変わり始めた世界においてもZENホメオパシーの灯があれば道に迷うことなく確かに歩を進めることができる自信を持って言えます。このコンGRESを皆様と迎えられることに感謝いたします。

●症例発表（2日目②）

■トラウマを乗り越え、パワハラのある職場に復職できたケース

竹内基幸（たけうちもとゆき）

JPHMA認定ホメオパスNo.0864

ZENメソッド修得認定No.0214

日本ホメオパシーセンター名古屋本部

CHhom1期

幼稚園・小学校・中学校では「いじめ」、高校・大学進学への挫折、就職後に「恐い上司」につき、配置移動でも「恐い上司」に巡り合い、転職しても「恐い上司」からパワハラを受けたという



36才の女性。クライアントさんが人生の被害者になつてしまった結果、パワハラ上司を作りだしパワーゲームにはまつてしまった「トラウマの再演状態」には、慢性のトラウマ（インナーチャイルド）を癒す必要があつた。トラウマに怯え、自信を失つたクライアントさんが、インナーチャイルド癒しでいっぱい泣いたり、クライアントさんの自己治癒力と「自分を変えた元へ復職できました。人から責められているように感じる方やトラウマを抱えている方にぜひ見て欲しいケースです。

第21回JPHMAコンGRES開催おめでとうございます。ホメオパシーの素晴らしさ、自然に生きることの大切さを、皆さんと一緒に感じたいと思います。この大会を通じて、ホメオパシーの恩恵が多くの皆さんに降りそそぐことを願っています。

●症例発表（2日目③）

■潜在意識の悪感情が解放されると共に卵巣嚢腫が消失したケース

岡本祥子（おかもとさちこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0011

JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0130

ZENメソッド修得認定No.0182

HMA認定ホメオパスNo.0926

日本ホメオパシーセンター東京吉祥寺御殿山

RAH2期

・ケース概要

今回発表させ

ていただくのは、20年にわたり卵巣嚢腫による激痛、破裂での緊急搬送を繰り返し、ホルモン剤の服用を続けてきた女性のケースです。



一方で自分の中に暗黒の恐ろしいイメージを感じておりそれが浮上してくることに苦しみ、飲酒により自己コントロールができなくなると周囲とトラブルを起こしてしまうという問題も抱えてきました。

ホメオパシーによるアプローチによりそれらが大きく改善した経緯について発表でお伝えしたいと思います。

kongressには第一回目から参加させていた
だいています。今回は第21回目ということで月
日の経つのは本当に早いです。大会を継続して
開催して来られた由井先生やスタッフの皆さま
に感謝です。今回はコロナ騒動により通常とは
違う形での開催になりますが、時代と共に進化
していくホメオパシーを象徴する会となること
でしょう。

●症例発表 (2日目④)

■20代女性 ZEN ホメオパシーで幸せに生
きられるようになったケース

菊田雄介 (きくたゆうすけ)

JPHMA認定ホメオパスNo. 0406

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo. 0030

日本ホメオパシーセンター東京総本部

イブニング1期

・ケース概要 一回目相談会の内容

体力がなく疲れやすい。生理の時は会社行けな
い。生理は二十日で短く一カ月に二回体調悪く
欠勤する。経血は鮮血。レバーのような塊。ピ
ルを服用、貧血、PMSもある。外食・ジャン
クフード中心の生活。気分が浮き沈み激しく些
細なことで怒る。上司から注意されたことにキ
レて会社の壁を蹴り足を骨折した。

顔色がとても白い、日焼け止めを使用。親から
色が白いことをほめられていた。

「ブサイクは生きていく価値がない」という価
値観が強い。中学の時にいじめられ高校の時に
整形をした。親から頭が悪いと無価値と言われ
て来た。弟と比べられていた。親の期待に応え
ようと成績は優秀だった。

この方がZENホメオパシーで改善し、幸せ
に生きられるようになったケースを紹介します。



●症例発表 (2日目⑤)

■ホームキットの活用 スズメバチに刺され
た際のレメディーでのケア

佐藤美登里 (さとうみどり)

JPHF認定ファミリーホメオパスNo. 0202

FH9期

わたしは林業の業種のなかの「苗圃」で働い
ています。毎年同じ時期に自社所有地、もしく
は許可を取っている場所で樹木の種を取ること
があります。この症例はそんな毎年同じように
種を取りに行く場所で起こりました。日本に多
く生息する「黄色スズメバチ」、種を取ること
に夢中になっていたとき、ブロンブロンという
音がしたかと思うと次々と3人も刺されてしま
いました。病院に行くも処方なし。帰宅後に
レメディーをとった方とらなかつた方の差が
出ました。これはわたしがファミリーホメオパ
スコース受講中に
起こった出来事
です。



●症例発表 (2日目⑥)

■心室中隔欠損が治癒し、疲れやすさが改善した中学生のケース

大阪 順子 (おおさかじゅんこ)

CHhom7期



中学校に入った6月頃から朝起きられなくなってしまう、毎日学校に行くことができなくなった。時々放課後に学校に行く、翌日は疲れでぐったりしてお腹が痛くなったりする。体のむずむず、立ち眩みにも悩まされる中学生男子のケースを紹介させていただきます。

この男の子は生後一カ月で心室中間欠損の診断を受け、中1の心電図の検査ではまだ穴はふさがっていないと診断されました。症状が複数ありましたが、まずは重要な臓器のケアをと思い心臓のサポートから始めました。

その後、数回の相談会を経て悩まされていた症状が減り、毎日友達の家遊びに行けるまで

に改善。お母さまからも「前より体が丈夫になった」と嬉しい報告をいただいたケースです。

学生相談のケースの1つですが、多くの方が見てくださるコンGRESで発表の機会をいただき大変光栄に思います。同じような症状でお悩みの方のお役に立てれば幸いです。

最後になりましたが、第21回コンGRESの開催、おめでとうございます。ホメオパシーの益々の繁栄をお祈り申し上げます。

●症例発表 (2日目⑦)

■医食農同源の暮らしが自己治癒力を高める可能性 (交通事故による脳内出血の改善、乳癌術後の経過)

片山里美 (かたやまさとみ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0853

ZENメソッド修得認定No.0203

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0031

日本ホメオパシーセンター石狩当別

CHhom1期

当センターでは、自家採種自然農の畑を活用

して、医食農同源をテーマに、土と繋がる手仕事、旬の野菜とハーブを使った食事、季節に応じたセルフケアを実践するワークシヨップをひらいています。

シーズン通して、このワークシヨップに参加され、日頃より季節を感じ、自然な土で固定種の種から育つの野菜を食する暮らしを实践された方々が、いざ難治とされる症状を抱えたときに、自らの治癒力で症状を乗り越えられた症例をお伝えします。

今回は、50代女性の方が交通事故による頭蓋骨骨折、脳内出血、嘔吐、打撲痛を改善されたケース、そして、60代女性の方が乳癌摘出手術とホルモン治療による体調不良と不安感を克服されたケースを発表させていただきます。

自然な種と土をもとにした、医食農同源の暮らしが自己治癒力を高め、私たちの心と身体を健康に導く可能性があることを、第21回コンGRESにご参加の皆さまと再確認できる一症例となれば幸いです。



日本豊受自然農リレー発表

① 豊受自然農 御古菌・土づくりを通して
感じることに

日本豊受自然農
静岡函南農場 農業部 小林 且幸

日頃 御古菌の作業を通じて感じることに、小さな変化や生き物・見えない次元で感じられることなど色々あります。単調な動き（好気性菌の攪拌作業による酸素循環）のなかで 変化する御古菌の、本当に少しづつの変化がやがて堆肥・土にかえり 作物の根から吸収され、食べ物に代わっていくことを思うと自然界の持続可能なサイクルの中にいさせてもらっているようで 喜び・安心感・有難さのようなものを感じております。



② 大豆の栽培に携わっていく中で
日々感じている事に

日本豊受自然農
静岡 函南農場 農業部 白井 天斗

現在育てている大豆について日々思うこと、感じることをまとめて発表できたらと考えています。農業を生業にするようになって良くも悪くも以前のころと比べて変化していると思います。発表に關しましては大豆の種まき、生育過程・状態、畑の生態系などについて述べたり、また中耕除草・草刈り・草取りなどについても発表できたらと思っております。これからも農作業を通じて成長していけるように日々精進し参ります。



③ 函南農場での生姜、里芋の一年、
植付栽培、保存方法

日本豊受自然農
静岡 函南農場 農業部 脇田 泰豪

私は、入社して十月でちょうど一年になります。入社後、最初に収穫したのが、生姜、里芋で、一番印象に残っています。今回、生姜、里芋の一年を植え付けから収穫、保存方法までを発表したいと思います。生姜は体によく、薬味として重宝しますし、里芋はあのねっとり感がたまりません。美味しくいただきたい体が快調になる生姜、里芋は最高です。今回は、私が農業の仕事して一年で感じたのは、太陽のもと自然のなかで働けて、心地よいということです。そういったことも伝えてみたいです。



④自分が豊受自然農に入ったきっかけ

日本豊受自然農

静岡函南農場 加工部 牧田裕介

僕が農業を始めたきっかけは、農薬が体に悪影響を受ける事を知ったからです。また、加工食品などにも、残留農薬、保存料などに、有害なものも含まれている事を知り、ショックを受けました。なので、自分に何かできないかと考えた結果、農家を始めようと思ってきました。今は加工部に所属し、自然農法で採れた大豆で、豆腐を作っております。今回は、自分が豊受自然農に入ったきっかけをお話したいと思います。



⑤「大自然の恵み 洞爺ハーブ蒸留水と精油」

日本豊受自然農

北海道洞爺農場 澤田美史

洞爺湖を望み、美しい大自然に囲まれて作業している中、植物たちのパワーをとっても強く感じます。冬の長い洞爺、雪の下で力を蓄えた植物たちは、春になると、とても力強く開花し、私達人間にその恩恵を与えてくれます。そのような植物に感謝し、霊性の高い蒸留水・精油を使った商品を作らせて頂いています。コンGRESでは、その製造工程や、植物の力・蒸留水の利用方法などお話しさせて頂きたいと思っています。



ポスター発表会場(web)のご案内

第21回 JPHMAコンгрессのポスター発表は、web上(コンгресс特設サイト)に期間限定にて公開します。閲覧には「パスワード」入力が必要です。

■ポスター発表会場URL QRコードからもアクセスできます。
<https://jphma.org/congress2020/presentation/>

■パスワード 7ccke2ms

■公開期間 2020/10/3~2020/11/1

■注意事項

ポスター資料の保存(録音・録画・画面キャプチャ等手段問わず)や再配布は一切禁止します。参加情報(パスワード、URL等)を「参加申込者」以外と共有することは禁止とします。また、「参加申込者」以外の方が「参加申込者」の画面を閲覧することも禁止いたします。



ポスター発表の部

第21回 JPHMA コンгрессのポスター発表は、コンгресс特設サイトに期間限定にて公開します。各発表者をご紹介します。

.....

A-1

■5歳猫慢性腎不全ステージ3と、食欲低下が一回の相談会で改善したケース

酒井 由紀子(さかい ゆきこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0546
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0112
ZENメソッド修得認定No.0037
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0172
日本ホメオパシーセンター東京総本部
RAH 10期

動物愛護センタ

ーから引き出された時点で下半身不随を抱えた、5歳の雌の猫のケースです。数度の膀胱炎や左後肢断脚、化膿による断尾の



あと徐々に食欲低下となり、その後腎機能低下が判明しましたが、治癒のきっかけは意外なところがありました。動物たちの持つ「底力」を見せてもらい、希望につながるケースでした。

「参加費無料、自宅配信可能」ようやく、より多くの方が気軽に参加できる日がやってきました。どの発表も見逃せませんが、特にホメオパスではない方からの「体験発表」に、毎回心を打たれます。大会の成功を心よりお祈り申し上げます。

.....

A-2

■ネコの尿石症、排尿障害が

短期間に改善したケース

佐藤 文子(さとう あやこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0636
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0088
ZENメソッド修得認定No.0064
HMA認定ホメオパスNo.1580
日本ホメオパシーセンター札幌西11
RAH 11期

かけがえのない家族の一員である動物の健康

を守る上で、ホメオパシーがいかにパワフルで頼もしいツールとなるか。ネコさんの排尿障害が短期に改善したこのケ



ースが、それをわかりやすく見せてくれていま
す。愛するペット動物がいきいきと長寿を全
うできるように、飼い主としてはできるだけ
のことをしてあげたいもの。安心安全なホメ
オパシーを活用して、多くの方が動物さんと
の幸せな生活を送られることを願っています。

.....

A-3

■犬の心膜内水の増加への対応

(心タンポナーゼへのアプローチ)

水野和子(みずのかずこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0876
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0118
ZENメソッド修得認定No.0226
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0008
HMA認定ホメオパスNo.i642
日本ホメオパシーセンター湘南平塚
Chhom1期

動物の疾患の場
合、最初はほんの
小さい変化で、そ
の変化をいかに飼
い主が気づき、そ
れに対応できる
かにより、その後
が大きく変わら
ず。また、急性症



状として見えているものが起こった原因が分から
ない場合、小さな急性症状に対応し、原因を確認
するために検査を行うことも重要になります。心
嚢膜水の増加にはいくつかの原因があり、その原
因を治療しなければ、現代医療では完治はしま
せん。急激に増加をする状況になった場合は腹水、
胸水などの対応と同じく心臓から注射針で抜き取
ります。現代医療では手のない疾患を250年以
上の長い時間の中で先人たちが残してきた実践
的なレパトリーを活用して対応したケースです。

.....

A-4

■突然のメニエール病発症から短期間で劇的に
改善した犬13歳雌のケース

竹内久恵(たけうちひさえ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0499
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0084
HMA認定ホメオパスNo.i527
日本ホメオパシーセンター札幌本部、札幌北大植物園前
フルタイム2期

ある朝突然に、四
肢のふらつき、眼球
振動を発症し、一時
間も経たないうちに
歩行困難となり、動
物病院でメニエール



病と診断された13歳メス犬が、レメディーのみを
とり始めてから劇的に症状が改善し、一週間後
には完治したケースです。

.....

B-1

■水のレメディーで、精神、心が成長したケース

和泉田聡美(いずみさとみ)

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0309
Chhom7期

今年の初め、36種類
の水のレメディーが登
場しました。このケー
スを見て頂ければ、水
のレメディーが、心や
精神に大変よい影響を
与えてくれることがわ
かっていただけるかと思
います。水のレメディー
の力を知っていただき、
みなさんにもぜひ使っ
ていただきたいです。

21回目のコンGRESが今年も開催されること、そ
して参加できることに感謝いたします。

.....



B-2

■喘息、鬱などの症状が誘因に

アプローチすることで改善したケース

竹内基幸(たけうちもとゆき)

JPHMA認定ホメオパスNo.0864

ZENメソッド修得認定No.0214

日本ホメオパシーセンター名古屋本部
Chom1期

鬱状態や喘鳴ぜんめいがあり空咳などの症状が六カ月前から発症した。その誘因(六カ月前)は娘さんとのやり取りにあり、それを紐解くと子どもの頃の父親との関係性にあった。クライアントの方の心の在り方や身体の症状を自分の問題と捉えて、インナーチャイルド癒しに取り組み、誘因を考慮したレメディーをとることにより、一回の相談会でほとんどの症状が改善したケース。
79才のご年配の女性の素晴らしい自己治癒力に注目です。



B-3

■低体重で出生した働く女性の胸の痛みの改善

西井陽子(にししいようこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0926

ZENメソッド修得認定No.0326

日本ホメオパシーセンター大阪堺北野田

Chom3期

偶然、隣に座り合わせたところから、働く女性の胸の痛みと潜在的な心の嫌悪感を取り除く健康相談を開始しました。思考と意志と理解を促し、生活習慣の変容を踏まえて、胸痛の症状が改善していくケースです。免疫低下を起こしたのは、どの時期からのどのような影響で、本当はどのような機能であったか御報告させていただけます。多くの人の症状や、感染症対策には、顕在化した症状のアプローチだけでなく、遺伝や環境因子から受ける影響に改善策があることを、ご理解いただける症例です。



B-4

■インナーチャイルドセラピスト1年目の体験

木村恵美子(きむらえみこ)

JPHF認定ファミリーホメオパスNo.0017

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0428

FH1期・IN7期

インナーチャイルドセラピスト1年目の変化について。コースのおかげで「死ぬしかない」から「死んでる場合じゃない!」に変化。活動のプロセス、家族との関係に由井寅子先生発案のインナーチャイルド癒しの素晴らしさを実感した自分自身の体験を発表します。

第21回記念大会開催おめでとうございます。皆様の日々の輝きの結晶が一齐に見られるのがコングレスだと思えます。皆様の幸せのために活用されますように祈っています。



B-5

■慢性症状がホメオパシーと自己の内面に
向き合い癒すことで大きく改善したケース

小林智美（こばやしさとみ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0984
ZENメソッド修得認定No.0394
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0169
日本ホメオパシーセンター東京総本部
Chhom5期

高校生の頃から極度の眠気やだるさという慢性疲労、副鼻腔炎、度々発症する円形脱毛症に悩まされていた20代女性のケースです。

クライアントは相談会を受ける中で症状を引き起こすストレスを自覚し、その原因がダメな自分を許せない思いや他者への依存心から生じていることに気づいていきました。自己の内面に向き合い、インナーチャイルドを癒していくことで症状が改善していくと共に精神的にも大きく成長していきました。

第21回コングレスにて、自己治療力に働きかけ、癒しと成長をもたらすZENホメオパシーのすばらしさを多くの皆様と共にシェアできますことを心より願っております。



B-6

■十年前から出続けた「すねの湿疹」が
「本来の自分」に気づくとともに改善したケース

菅野幸二（かんのこうじ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0245
HMA認定ホメオパスNo.1339
日本ホメオパシーセンター東京総本部
RAH7期

一年の相談会を経て、主訴である十年前から、なかなか治らなかつた皮膚症状が著しく改善したのはレメディーだけの影響ではなく、クライアント本人の心の在り方が大きく変化したことが主要因としてあげられる。「コントロールされることに腹が立つ」という被害者の意識から、「人は自分の心の在り方を鏡になって見せてくれる」という自分がすべての源であるという意識へのシフト。そして自分を受け入れることの大切さに気づき、日常の様々な出来事に対して、俯瞰的に見るようになり、人の質が変わったことが大きいと思われる。



C-1

■六歳男児 父の死を乗り越えてチックが
改善し、精神的にも成長したケース

鎌田砂江子（かまださえこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0244
日本ホメオパシーセンター福井恐竜渓谷
RAH7期

お父さんの突然の病气から大好きなお父さんとお別れを体験して以来、ご自身のアイデンティティに疑問を持ちチック症状を発症。ホメオパシー三次元処方デチックなどの症状は改善するものの、レメディーがなくなるころに不安感が増し、徐々に良くなっていると実感は出来るものの自信を取り戻すまで時間がかかったように感じますが、その過程において押さえ込んでいた感情を言葉にしたり、またそれをご家族が受け止めていかれたり、ご家族全員（お母様、妹さん、おばあ様、おじい様）でホメオパシー相談をお受けくださり、ご家族みんなで悲しみを乗り越えて希望に満ちた現実を取り戻したケースです。



C-2

■オンラインゲームで乱れた生活のサイクルと、母子の関係が修復したケース

新栄尚美（しんえいなおみ）

JPHF認定ファミリーホメオパスNo.0107
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0255
Chhom7期

始まりは母親の健康相談会でした。「体調が悪化する原因の一つは子どもの生活習慣」という母親。頭を抱えていたのは子どものオンラインゲームでした。ゲームをするのは悪いことなのか？であれば何が悪いのか？。親の言い分、子の言い分を聞きながら、母と子の間にある寂しさや誤解、諦める心などについて共に考え自分に問いかけたケースでした。

第21回コンGRESの開催、おめでとうございます。ご自宅での視聴が可能な今回、これまで以上にたくさんの方が参加され、もつともつとホメオパシーが広がっていきますように。



C-3

■子どもの不登校・ゲーム依存・虚脱を克服した親子のケース

新城英一（しんじょうえいいち）

JPHMA認定ホメオパスNo.0452
日本ホメオパシーセンター読谷トリア
RAH9期

不登校の原因は様々であり、病気でないため医療機関でも治療が困難です。不登校を子供の問題として考えるのではなく、家族の問題、特に母親のインナーチャイルドを含めてとらえると、克服できる

事があります。変化した母親の言動がレメディーのよ



うに子供に影響を与えると共に、変化した家族の集合意識が子供を変化させるのです。今年のJPHMAコンGRESは、コロナ禍での不安やストレスを乗り越え「人生の転機」に変える大会となるでしょう。由井名誉会長、松尾会長、来賓の方々、ホメオパス達からのメッセージを楽しみにしております。

C-4

■『無月経』が1回の処方で治癒されたケース

新城英一（しんじょうえいいち）

JPHMA認定ホメオパスNo.0452
日本ホメオパシーセンター読谷トリア
RAH9期

自然療法士の仕事は症状の全体をみて調和させる事にあります。このケースでは遺伝傾向（慢性マヤズム）を踏まえた病理を的確にとらえ、レメディーと食生活の指導で全体を調和させた事が功を奏しました。

.....

C-5

■ZENホメオパシーによってイボがなくなり、子どもらしく生きられるようになったケース

渡邊公代（わたなべきみよ）

JPHMA認定ホメオパスNo.1012
ZENメソッド修得認定No.0428
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0230
日本ホメオパシーセンター東京総本部
Chhom6期

幼稚園でイジメにあい、絶望していたクライア

ントは、瞼にイボが出来て皮膚科にいったが再発。ZENホメオパシーによってイボはなくなり、再発しなくなりまりました。同時に、いじめっこに対抗できるようになるほど、心も身体も以前より強くなれたケースをご紹介します。



C-6

■攻撃性が強かった自閉症男児が

一回の処方で落ち着いたケース

渡邊公代（わたなべきみよ）

JPHMA認定ホメオパスNo.1012
ZENメソッド修得認定No.0428
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0230
日本ホメオパシーセンター東京総本部
CHhom6期

二歳の時に重度の自閉症と診断され、コミュニケーションを取ることが難しく、自虐的な行動や攻撃性が強かった六歳男児が、一回の相談会で意志の疎通ができるようになり、一ヶ月半でひらがなの読み書きもできるようになりました。

た。胎児期のトラウマ、母親のインナーチャイルドなどにアプローチしたZENホメオパシーによって、健やかな成長が見られたケースをご紹介します。

D-1

■頭部と眼球に広がった带状疱疹が

改善したケース

安藤玲（あんどこうあき）

JPHMA認定ホメオパスNo.0818
ZENメソッド修得認定No.0241
日本ホメオパシーセンター旭川永山
RAH13期

多くの人が罹患する带状疱疹をホメオパシーでケアし改善したケース。頭部や眼球に広がった带状疱疹は、深く傷ついた心を癒し霊的な背景をケアすることで改善したケース。

第21回のコング

レス開催おめでとう

ございます。新

型コロナ感染症の流行の中でホメオパシーの重要さが今後も多くの人に



支持され拡大されていくことを祈念してやみません。このような中でコングレスを開催していただいた事に感謝致します。

D-2

■43歳女性 大人のアトピーと向き合うことで

前向きさを取り戻したケース

鎌田砂江子（かまださえこ）

JPHMA認定ホメオパスNo.0244
日本ホメオパシーセンター福井恐竜渓谷
RAH7期

遠方の方なので
毎回電話による相談のせいか、自己主張というかご自身を表現するのが苦手なご様子の方



でしたが、「アトピー性皮膚炎と向き合う」ということは本当の自分を取り戻すことだ。」と自覚されて以来、きちんとご自身の気持ちを伝えて下さるようになりました。そのことはレメディ選択のサポートにもなり、また膚炎症状の改善と共に、本来のご自身を取り戻し幸せや喜びを再確認するご様子

D-3

■チャドクガ皮膚炎にVaric等を用いて
乗り越えたケース

加藤育代(かとういくよ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0912
ZENメソッド修得認定No.0304
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0152
日本ホメオパシーセンター愛知弥富
Chhom3期

ここ数年、毎年のように発症しているチャドクガ皮膚炎への対応を、外側に原因を求めるのではなく、「クライアント自身が身体を浄化させるためにチャドクガの毒の力を借りて出している症状」だと視点を転換することにより、非常に短期間で不快な症状が改善されたケースです。



D-4

■ステイホームの期間を利用しホメオパシーに
取り組み、三カ月間で皮膚症状が改善したケース

福岡成海(ふくおかなるみ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0741
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0103
ZENメソッド修得認定No.0053
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0054
HMA認定ホメオパスNo.1595
日本ホメオパシーセンター神奈川厚木
RAH12期

コロナの自粛で憂いたり鬱々とした日々を過ごしていた方もたくさんいらっしゃるであろう中、このケースのクライアントさんは、とても有意義なステイホーム期間を過ごされたことと思います。激しい好転反応を乗り越えられたのも、休校のお陰様でもあります。第21回コングレスも、コロナのお陰様でオンライン視聴が可能になり、より多くの方が参加して下さるのではないのでしょうか。第21回コングレス開催、おめでとうございます。



D-5

■食物アレルギー及び皮膚湿疹が改善した
六歳男児の例

池間早苗(いけまさなえ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0689
ZENメソッド修得認定No.0117
HMA認定ホメオパスNo.1596
RAH12期

小学校入学前の六歳の男の子の、食物アレルギーと皮膚湿疹にホメオパシーのレメディーとマザーチンクチャーで対処しました。一度の相談会で主訴(食物アレルギーと皮膚湿疹)がみられなくなりましたが、一年後に再発して相談を受けました。結果、再び改善し、精神面の症状も軽減されたことを報告いたします。



第21回大会の開催おめでとうございます。お祝いとお喜びを申し上げます。今回は会場と自宅参加の皆様が心ひとつに、研究と実践の成果をシェアします。数秘術で2と1の組み合わせは、新しい方向性や機会を意味するそうです。また、2+1=3は、

三位一体を表し、「魂・精神・肉体」という三要素が統合され成長するという、まさに「ZENホメオパシー」を体現する意義深い大会となりますことを確信します。皆様、共にごんばりましょう！

.....

D-6

■その皮膚の排出◎好転反応を恐れないで！
体質改善とともに充実した日々を過ごされるに至った境地

紀野 陽子(きの ようこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0917
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0125
ZENメソッド修得認定No.0309
JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0080
日本ホメオパシーセンター東京総本部
Chhom3期

潰瘍性大腸炎・喘息・遅延型アレルギーをもつ六十代の女性です。甲殻類アレルギーの皮膚発疹がきっかけで相談会にお見えになりました。皮膚に激しい症状とともに好転反応の排出もとても大変でした。それを見事に乗り越えて、現在、笑顔をキラキラ輝かせながら充実した日々を過ごされています。皮膚発疹や好転反応は大変ですがその先には：輝く新たな次元の世界が待っています。クライアン

ト様からのメッセージも載せています。同じように苦しんでいる多くの方々への一筋の光明となれば幸いです。



第21回ホメオパシー学術大会JPHMAコンGRESSの開催おめでとうございます。

このような時期にあっても、このような時期だからこそ、ライブ&中継&自宅配信にて行われることに感謝申し上げます。今こそ、ホメオパシー療法が必要です。心も体も不要なものを手放して、生きやすくなりますように。ホメオパシー療法の益々の発展と共にひとりでも多くの皆様にホメオパシーの恩恵が届きますように、心より祈念いたします。

.....

E-1

■甲状腺亢進症による心臓疾患の改善

今村 香(いまむら かおり)

JPHMA認定ホメオパスNo.0775
JPHMA認定アニマルホメオパスNo.A0109
ZENメソッド習得認定No.0087
HMANo.1623
日本ホメオパシーセンター滋賀草津
RAH13期・獣医師

甲状腺機能亢進症により生じた、心臓における動悸と強い息苦しさにより日常生活を送ることもできない高齢の女性がQX-SCIOとの併用で、手術を回避でき、しかも日常生活を取り戻せたことを発表します。興味のある症例がたくさん発表される機会です。ぜひ参加して、レベルアップしましょう！



E-2

■46歳女性 原因不明の体調不良から回復し、再び食事が出来るようになったケース

鎌田 砂江子（かまだ さえこ）

JPHMA認定ホメオパスNo. 02244

日本ホメオパシーセンター 福井恐竜溪谷

RAH7期

体重が32kgにまで落ち日々のルーティンもままならず、様々な医療機関で検査を受けるも不調の原因を特定出来なかったのですが、クライアントさんの現症状からレメディを選択し3次元処方をする事で改善したケースです。相談会を進めるうちに抑圧してきた感情が出てくることによって、その感情と向きあうことでネガティブな感情を非自己と認識し手放していくことで、本来の自分を取り戻し、再び元気に過ごせるようになったケースの紹介です。



E-3

■心臓の発作の消失と同時に過去の人生が書き換えられたケース

神尾 季代子（かみおきよこ）

JPHMA認定ホメオパスNo. 1029

ZENメソッド修得認定 No. 0464

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo. 0224

Chom7期

女性霊能者（霊視）のケースです。仕事柄、苦悩を隠して心身に強靱にふるまって来られましたが限界でした。主訴は夜中の窒息しそうな心臓の発作でしたが、霊的防御とインナーチャイルド癒しも必須でした。「ホメオパシーは私の過去を書き換えてくれたわ。」これはクライアント自身が最後に言ってくれた言葉です。

第21回目。今年は世間が騒がしかったですが、これも多くの方にホメオパシー療法が広がる追い風だと願っております。



E-4

■胃腸障害と電磁波過敏症のケース

土橋 晃子（つちはしてるこ）

JPHMA認定ホメオパスNo. 0925

ZENメソッド修得認定No. 0325

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo. 0341

日本ホメオパシーセンター 東京総本部

Chom3期

胃腸での消化がほとんど機能せず、最小限にしか物を食べられずに痩せていく体質と、スマホ等の電磁波に敏感過ぎて動画視聴も困難な症状を持つ方のケースです。相談会を通し、あるキーワードの感情に関する過去の体験が次々と浮上、主訴の症状と好転反応に合わせたレメディー摂取と共に、インナーチャイルド癒しを実践して頂きました。参加費無料でライブ配信もされるといって頂けないコンGRESSで、より多くの方々にホメオパシーを知って頂けたらと思います。



E-5

■好転反応を乗り越え、アレルギー性鼻炎と貧血が改善したケース

神田恵（かんだ けい）

JPHF認定インナーチャイルドセラピストNo.0373

CHhom7期

クライアントがさまざまな好転反応を乗り越え、貧血の数値と鼻炎が改善したケースを発表させていただきました。今回のJPHMAコンGRESSにポスター発表という形で参加できることを大変光榮に思います。ホメオパシーの素晴らしさが多くの人に広まり、発展していくことを願っています。



E-6

■毎日の蕁麻疹等の皮膚湿疹・痒みを通して、自分を大切にするという事に気づくことができたケース

光山久都（こうやまひさと）

JPHMA認定ホメオパスNo.0975

ZENメソッド修得認定No.0385

日本ホメオパシーセンターさいたま御蔵

CHhom5期

蕁麻疹は比較的よくある病気で、15〜20%の人は一生のうちに一度は経験するといわれています。一般的には食べ物や薬に対するアレルギー反応として起こると思われていますが、その他感染、運動、暑さ、寒さといった刺激、圧迫や日光などによっても起こります。最近では蕁麻疹が慢性化し、毎日繰り返し現れる症状を訴える方も少なくありません。痒みや痛み、だるさも伴い非常に煩わしい症状ですが、これらの症状は体心魂からの大切なメッセージなのです。このケースではこうした蕁麻疹に対するホメオパシーアプローチについて解説します。



F-1

■自らの意志で抗がん剤を止められ、自分らしさを取り戻したケース

楠瀬裕道（くすのせひろみち）

JPHMA認定ホメオパスNo.1021

ZENメソッド修得認定No.0456

CHhom7期

52歳女性。集中力がなく無気力で、常に恐怖心で囚止められたがグルグル回る。非常に疲れやすく、常に眠い。乳がん手術後の左脇下の麻痺感がある。抗がん剤「タモキシフェン」を服用中。自らの意志で抗がん剤と大量のサプリメントを止められたのは、最初の健康相談で薬害の危険性や自然療法について詳しく説明し、ご理解いただけたからだと思います。ZENメソッドに基づいたレメディイを選択し、健康相談毎に症状が緩和され、雰囲気明るく自然体が変わっていった事が印象的なケースです。



F-2

■体力低下と咳喘息等の諸症状の改善したケース

里山育子(さとやまいくこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.1024

ZENメソッド修得認定No.0459

CHhom7期

ストレスがかかることで昔の症状(咳喘息)が再発し、回復する体力がなく疲労感を常に感じていたクライアントさん。自分が頑張り過ぎていることを自覚し症状と向き合うことで、疲れた時に出ていた諸症状が少しずつ緩和し、回復力がついてきました。これからますます元気になっていく姿が楽しみです。



F-3

■誕生の際に羊水を飲み込んで生じたと思われるナルコレプシーが改善したケース

成瀬みどり(なるせみどり)

JPHMA認定ホメオパスNo.1016

ZENメソッド修得認定No.0451

CHhom6期

クライアントは長期間生活に支障のある症状を抱えていました。起床後に身体を動かし始めた時に、昼食後に、人に合っている時にも、自分の意思に反して眠気に襲われてしまいます。そのため「この病気がから解かれたい」という強い願いを持っていました。私も彼女に対して、少しでも改善して生活を楽しんでほしいと思っていました。このケースはクライアントの強い願いが、改善のために功を奏したのではないかと思います。

F-4

■六年間、毎日悩まされたふらつきが改善したケース

藤山道子(ふじやまみちこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0661

ZENメソッド修得認定No.0065

日本ホメオパシーセンター札幌南2条

RAH11期

原因のわからない激しいめまい・ふらつきが約六年間、毎日あった方のケースです。一カ月半〜二カ月ごとの相談会をしつかり継続していくことで、半年後には症状が大きく軽減、一年半後にはほぼ消失。行動を制限せざるを得ない不調から解放され、日々のびのびと活動されるようになりました。バイタルフォースが活性化することで快適な毎日とともに、その人らしさが戻ったといえるでしょう。新型コロナウイルス旋風が吹き荒れ、世の中たいへんな状況ですが、今こそホメオパシーをはじめとする自然療法が必要なとき。第21回記念大会を通じて、ホメオパシー療法と、私たちの体に備わるすばらしい治癒力を多くの方知ってもらえますように！



G-1

■思春期までの発達段階の課題の遅延

(モフラトリアム)を激痛改善に生かしたケース

西井陽子(にしいようこ)

JPHMA認定ホメオパスNo.0926

ZENメソッド修得認定No.0326

日本ホメオパシーセンター大阪堺北野田

看護師・Chom3期

思春期で親の愛の渴望、自らの本当の思いを伝えられなかった事で、辛く深い思いを潜伏させ、更年期で、自分なりの愛の実践で、人生における深く長く辛い痛みを癒したケースです。絶望や災害を乗り越え浮上した夜も眠れないような激痛が、無条件の愛の思いに馳せる事になった本当のワケとは？現物質を活性化した万物生命のスピリットやエネルギーが心身や魂を癒され、摂食障害、発達障害などに関連した潰瘍様損傷の難治性事例にホメオパシーを使い、左外果部の手術を回避したケースをご紹介します。



G-2

■蜂に刺され気が動転している女の子が、ホームキットのレメディーで落ち着きを取り戻し改善したケース

伊藤里奈(いとうりな)

JPHF認定ファミリーホメオパスNo.0200

FH9期

ホメオパシーを学び始めたばかりのファミリーホメオパスコースの学生が、公園で早速ホメオパシーを使った事例です。買ったばかりのレメディーホームキットで、とてもわかりやすい効果が得られました。「もっとホメオパシーを学びたい」と改めて思う出来事でした。



G-3

■頑張り過ぎて悪化していた腰痛とばね指が改善したケース

高島宜則(たかしまよしのり)

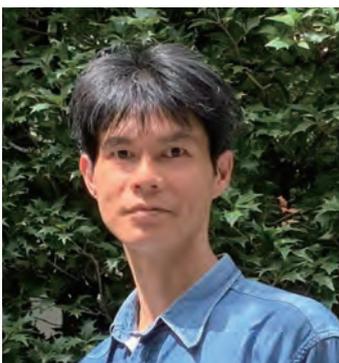
JPHMA認定ホメオパスNo.1025

ZENメソッド修得認定No.0460

Chom7期

四十代。頑張り過ぎてしまい、体を壊しやすい年齢でもあります。クライアントは、体が改善されたいかと思ったら頑張り過ぎて悪化を繰り返してしまふ。「頑張りなければならぬ」といった上に出てきたこと。その気づきや体の声を聴くことを相談会を通して話ながらレメディーによるサポートで身体をいたわり改善していったケースです。

由井名誉会長や松尾会長はじめ多くの方の力で今年のコンGRES開催が出来たことありがたく思います。卒業後初のコンGRES発表ができて、コンGRESの一役を担えることとてもうれしく思います。



◆日本ホメオパシー医学協会の
歩みと過去20回のJPHMA
コンGRESの足跡

1995年 由井寅子(現名誉会長)が日本人として初めて英国ホメオパシー医学協会(HMA)認定ホメオパスとなり、ロンドンでホメオパシークリニックを開業。

1996年7月 由井寅子が自然治癒力の会主催で日本で初めてホメオパシー講演を行う。

11月 由井寅子が東京医科大学、日本ホリスティック医学協会(会長 帯津良一)に招聘され、日本でホメオパシー講演を行う。

1997年4月 プロフェッショナルホメオパス養成校 ロイヤル・アカデミー・オブホメオパシー(RAH)設立
日本ホメオパシーセンター設立。
ホメオパシーとらのこ会設立。

1998年 「水の記憶」を実証したフランスベンベニスト博士を招き日本のRAHで授業。

4月 日本ホメオパシー医学協会
(JPHMA)設立

7月 九州大学医学部にて、英国ヒリオス社社長のモーガン氏とジョイント講演を行う。

5月 HMAと提携、イギリスから試験官を招き 東京の英国大使館で RAH卒業生が日本で初めてホメオパス認定試験を行い、日本で初めて10名のホメオパスが誕生。

■第1回JPHMAコンGRES

2000年5月14日

国立オリンピックセンター国際交流棟



5月 第六回日本ガンコンベンションにて、由井会長がホメオパシー講演とガンのケース発表。

■第2回JPHMAコンGRES

2001年5月20日

国立オリンピックセンター国際交流棟



■第3回JPHMAコンGRESS

2002年5月12日

国立オリンピックセンター国際交流棟



10月 英国ホメオパシー医学協会(HMA)コンファレンスに招待され、「日本におけるホメオパシーの現状と薬書へのレメディーについて」をテーマに由井会長が発表。

2003年4月 RAH福岡校、大阪校設立
インターネットTV同時中継でのスクール、講演会運営始まる。

第4回JPHMAコンGRESS

2003年5月18日

東商ホール



11月 由井会長が英国ホメオパシー医学協会(HMA)学会で、バイタル・エレメントを中心に、ヤトロジェニックマヤズム(医原病がある慢性疾患)を治癒するための三つ方法などを発表。

第5回JPHMAコンGRESS

2004年5月16日

RAH東京校(中継)・大阪校・福岡校



2005年3月 スマトラ沖地震・津波災害の義
 損活動と学術交流で由井会長がインド訪問。デ
 リー州首相ディクシット女史と面談し、6千ド
 ルの義援金をインド政府に寄付。インド政府の
 ホメオパシー研究機関と学術交流を実施、また
 ネルーホメオパシーホスピタルを見学、ネルー・
 ホメオパシー・ユニバーシティと学術交流を行う。

4月 世界ホメオパシー認識委員会(WHAC)
 に参加。

第6回JPHMAコンGRESS

2005年7月18日

RAH東京校(中継:大阪校・福岡校)

9月 JPHMAにてホメオパシー職業保険の
 運用が始まる

2006年4月 JPHMA独自のホメオパ
 ス、アニマルホメオパスの認定がスタート。

第7回JPHMAコンGRESS

2006年7月17日

RAH東京校(中継:大阪校・福岡校、英国校)

9月 英国校設立。The Japan Royal Academy
 of Homeopathy(RAH)



第6回大会



第7回大会

10月 由井会長が第47回人間ドック学会 沖縄大会に招聘され、ビル・ネルソンとともに講演

2007年2月 ドイツ語原典から『オルガノン 第6版』『慢性病論』第2版、ハーネマンのマテリアメディカのをドイツ語原典から翻訳出版、教材化

ハーネマンの直弟子ボーニンハウゼンのレパトリリーを開發現代版として復刻した豪ディミトリアデイス氏のTBRの日本語版を翻訳出版

3月 第1回ホメオパシー国際シンポジウムを京都で開催。

第8回JPHMAコンGRESS

2007年7月16日(前夜祭)・7月15日

RAH東京校(中継)・札幌校・京都校・大阪校・福岡校・英国校)

8月 ドバイ Century Training Centre for Homeopathic Medical Sciences, Dubai: CTCH主催。

ホメオパシー国際カンファレンスで由井会長が発達障害など難病のホメオパシーでの改善ケースを発表。

10月 ドイツ・ハイデルベルグで行われたICHH (国際ホメオパシー協議会) 再開会議 (Inaugural Meeting) に由井会長が日本代表として出席。



第8回大会

第9回JPHMAコンGRESS

2008年7月26日

社会文化会館



第9回大会

7月 第4回癒しフェア東京で1千名を前に由井会長がホメオパシーを講演。

9月 英国認定ホメオパス連合(A.R.H.)の学術大会に招聘され、「医原病と発達障害におけるホメオパシーのアプローチ」について、由井会長が発表を行う。

11月 千葉県の特トマーガレット病院との連携しホメオパシー相談会をはじめ

2009年4月 ベルギー ECCCH & ICH 国際ホメオパシー教育シンポジウム(International Homeopathic Education Symposium)にて由井会長が「医原病に対するホメオパシーアプローチをどのように教育するか」をテーマに学術発表。

第10回JPHMAコンGRESS 「ホメオパシーの可能性」

2009年9月12日～13日
国立京都国際会館

11月 英国ホメオパシー医学協会年次学術コンGRESSにて由井会長が「難治疾患と発達障害でのホメオパシーでの治癒成功例」を発表。

2010年2月 日本政府厚労省統合医療プロジェクトに由井会長がホメオパシー療法を説明。



第10回大会

3月 ドイツ ナラヤナ出版主催 第2回ホメオパシー小児コンGRESS(2. Kinderhomöopathie-Kongress)にて由井会長が「自閉・多動など発達障害のホメオパシー治癒事例」発表

5月 カレッジ・オブ・ホリスティックホメオパシー(CHhom)設立。

8月 日本で大規模なホメオパシーバッシングが起きる JPHMAホメオパシー新聞発刊。

第11回JPHMAコンGRESS 「ステップ！」

2010年9月25日～26日
つくば国際会議場

5月 由井会長が日本記者クラブで自然農とホメオパシーを講演。

8月 ドイツ コンGRESSにて由井会長が発表。

第12回JPHMAコンGRESS・ホメオパシー国際チャリティーカンファレンス
「ホメオパシーで安全な地球を」自然とともに生きるホメオパシー」

2011年10月8日～10日
つくば国際会議場



第11回大会



第12回大会

2011年3月より 東日本大震災被災地支援活動Wp行う。

2012年3月 第一回日本の農業と環境シンポジウム 京都にて共催。

4月 第一回国際伝統医学和合医療学術大会にて由井会長が発達障害治療のケースを発表。

4月 第7回ジョイント・アメリカン・ホメオパシク・カンファレンスに参加し、ラウンドテーブルティスカッションにてホスト役をつとめ、「放射能の問題におけるホメパシアプローチ」を発表。

7月 全世界に向け、日本語でCHhomプロフェッショナルホメオパス養成コースのeラーニング配信がスタート。

第13回JPHMAコンGRESS

「ホメオパシーはメタサイエンス

〜大事なものは目に見えない〜」

2012年9月29日〜30日

ベルサール神田(中継:CHhom札幌校、

名古屋校、大阪校、福岡校、英国校)



第13回大会

10月 CHhomインナーチャイルドセラピスト養成コースをスタート。

11月 オランダのホメオパシー団体「Zesde Ene Homeopathie」が開催するカンファレンス、「Homeopathy against cancer (癌治療に対するホメオパシー)で由井会長が招聘され、2時間にわたって「ZENホメオパシーによる癌へのアプローチ」をテーマに発表。

11月 日独ホメオパシー国際カンファレンスをドイツにて共催。日本、ドイツ、オランダからホメオパスが発表。由井大会長「放射能、植物環境問題におけるホメオパシーの活用」法「予防接種、自閉症、癌、難病における治療症例」「心を蝕むインナーチャイルド ZENホメオパシーを使ったその解決法」を発表

2013年3月 第2回日本の農業と環境シンポジウム京都「日本の種と食は大丈夫か」をテーマに共催。

9月 東京大学にて行われた第3回精神薬の薬害を考えるシンポジウムに招聘され、由井会長が講演を行う。

10月 日印ホメオパシー国際カンファレンス「国境なきホメオパシー」をテリにて3日間開催。

一行がスーホメオパシー医学カレッジ病院訪問。ホメオパシー中央評議会(CCH)とホメオパシー中央研究評議会(CCRH)を訪問「日本におけるホメオパシーの発展と現状」発表。

第14回JPHMAコンGRESS

「愛とサイエンスの融合ホメオパシー

〜愛は無敵〜」

2013年12月7日〜8日

【明治神宮参拝・一般講演:12月6日】

明治神宮会館



第14回大会

2014年3月 第3回日本の農業と食シンポジウム「いのちの源、自然農と自然食」を京都にて開催。

5月 英国ロンドンにて、国際ホメオパシー評議会（ICCH）& 欧州中央ホメオパシー評議会（ECCCH）ジョイントカンファレンスで、由井会長が「日本におけるホメオパシー法的状況」について発表。



第15回大会

第15回 JPHMA コンGRES

「今こそ有事にそなえる
食、心、命 すべてにホメオパシー」

2014年10月18日～19日

東京商工会議所ビル内 東商ホール

2015年2月 インド、ニューデリー、インド政府 AYUSH 省 ニランジャン・サンヤル長官と JPHMA 代表団が会合。



2月 インド、ニューデリー、インド政府 AYUSH 省 ホメオパシーリサーチ中央評議会（CCRH）にて、CCRH と JPHMA の「インタラクティブ・ミーティング」を開催。



2月&3月 日印ワールド・ホメオパシー・カンファレンスをニューデリーにて2日間開催。

3月 インド、コルカタに所在する「プラサント・バナジー・ホメオパシー研究財団」訪問。

3月 ブータン王国訪問。

第5代ワンチュク国王とJPHMA一行が1時間40分にわたる謁見を賜る。タシチョ・ゾンにて国王と直接お会いする機会を賜り、ホメオパシーや自然農をはじめ、ブータンと日本の文化や国民性など、幅広い分野に渡るトピックに対し、国王よりお言葉を頂く事ができた。「私はホメオパシーをサポートします」というお言葉を頂く。



日本からの参加者全員の前にも姿を現して頂き、記念写真も提供頂いた。

天皇太后(第5代ワンチュク国王の祖母)との謁見を賜る。ここでも、ホメオパシーはじめブータンで保護されている自然についてのお話など様々な分野でのお言葉を頂いた。日本からの参加者全員が宮殿に招かれ、一人ずつ、直接ご挨拶させて頂く光栄を賜る。



第16回大会

4月「第4回日本と農業の食シンポジウム」
共催第16回JPHMAコンGRESS

「病気になるない生き方」

食を見直し、心を癒そう!

2015年10月11日〜12日

世田谷区民会館

インド政府AYUSH省公認来日Drラジ・K・マンチャンダ、ホメオパシー・リサーチ・中央評議会(CCRH)長官、そして、Drアミータ・R・アミータを特別ゲストとして招聘。

マンチャンダ長官からは、インド政府AYUSH省CCRHから、ホメオパシーの普及へのJPHMAの貢献、また世界のホメオパシーに対する由井寅子ホメオパスの貢献に対して記念の盾と記念品とともに、インド政府CCRHが2013年にホメオパシー療法について「Homeopathy - Science of Gentle Healing」として、編纂し公開した書籍が贈呈された。

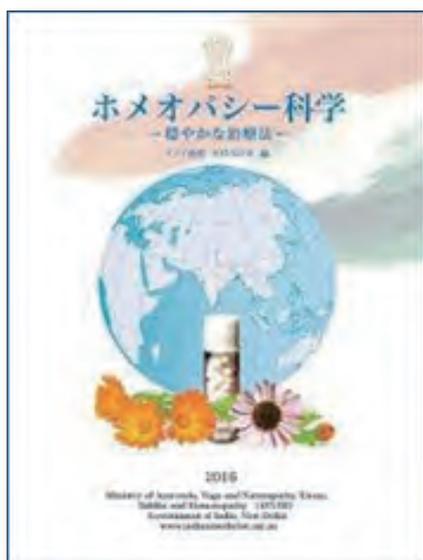
11月 ザ・カリフォルニア・ホメオパス11月号に由井会長の論説掲載される テーマ「感染や病原体の本質に関する考察」

3月 ドイツ最大の医科学専門出版社ティーム社発行「Homeopathic LINKS(ホメオパシックス・リンクス)」に由井会長の論説「日本における現代のホメオパシー」が掲載される

4月 第5回「日本の農業と食のシンポジウム」
「医食農健・自然な種、自然な農業が人々の健康を守る」共催。

7月 ロンドン大学、スクール・オブ・ファーマシーにて由井会長が「ZENホメオパシー」を講演。
10月 世界最大のホメオパシーポータルサイト Hpathy Vol.13 Issue 10 に「カルシウム欠乏症」をテーマに二つの症例を発表。

11月 インド政府ホメオパシーリサーチ中央評議会(CCRH・マンチャングダ長官)がまとめたインドにおけるホメオパシーリサーチの集大成の文献「ホメオパシー科学 ― 穏やかな治療法 ― (原題 Homeopathy - Science of Gentle Healing)」の日本語版をインド政府と協力を得て完成させ、リリースした。



第17回 JPHMA コングレス
「自然に生きれば、幸せになる。 - 自然な食・自然な農業・自然な心、そして自然な医療を取り戻そう」

2016年11月11日〜12日
世田谷区民会館



第17回大会

・インド・コッタヤムの国立ホメオパシー中央研究所では、ホメオパシーリサーチエビデンス集『ホメオパシー科学―穏やかな治療法―』日本語版出版記念式典が行われた後、「心の健康セミナー (Seminar on Mental Health)」と題した CCRH & JPHMA のジョイントイベントが開催された。



インド・コッタヤムの国立ホメオパシー中央研究所

・コッタヤムのホメオパシーで精神疾患の方に対応する国立の病院を見学。
 ・CCRH(ホメオパシーリサーチ中央評議会)の薬用植物調査センター訪問。



・ジャイプールでは、インド最大のホメオパス団体の一つ「インドホメオパシー医学協会(HMAI)」の第20回記念の年次学術大会に招聘され由井会長が「ZENホメオパシー」の発表を行う。



AYUSH省を訪問し、Anil Ganeriwala次官補と面会を持ち、マンチャンドラ長官、AYUSH省に努める研究員と1時間以上にわたり、今後の日印でのホメオパシー普及、教育、学術交流、リサーチ面などの協力など、様々なテーマで討議した。

2017年2月 インド、ニューデリーで開催された「World Integrated Medicine Forum on Regulation of Homeopathic Medicine (ホメオパシー医学・医薬の標準化規制(レギュレーション)における世界統合医学フォーラム)」に由井会長が日本を代表して参加。

4月 第6回日本の農業と食シンポジウム「自然回帰日本再生は自然な農林業と自然な心」を共催。

6月 由井会長の症例「ZENホメオパシーガス壊疽の奇跡的回復、インナーチャイルド癒し、カルマへの霊的アプローチ」が英国ホメオパシー医学協会(HMA)発行「Homeopathy International Spring 2017 Edition」に掲載される

10月 ドイツ(ニーフェルン)にて、開催された「SPIRIT NATURE HEALING(靈魂、自然、癒し)シンポジウム」にて、由井会長がメインスピーカーとして発表。



10月 ルーマニア、ヤシにて、The Romanian Association of Gemmotherapy and Homeopathy (ARGH: ルーマニア・ジェモセラピーとホメオパシー協会)主催のカンファレンスに由井会長がメインスピーカーとして発表。
発表テーマ:「インナーチャイルドと霊性 霊性向上の重要さ」

10月 オランダにて、Homeoprophylaxis: A Worldwide Choice for Disease Prevention (HPWWC: ホメオパシー的予防: 疾患予防への世界の選択)主催、初のヨーロッパカンファレンス



ルーマニアカンファレンス



オランダ 初のヨーロッパカンファレンス



イギリスHMAカンファレンス

で由井会長が発表。発表テーマ:「ZENホメオパシーによるホメオパシー的予防」

10月 イギリスにて、The Homeopathic Medical Association (HMA: 英国ホメオパシー医学協会)主催、HMA年次カンファレンスのメインスピーカーとして由井会長が発表。

12月 ARH (英国認定ホメオパス連合) ジャーナール「Homeopathy in Practice」Summer/Autumn 2016に由井会長の論文「ZENホメオパシー: HPVワクチン(子宮頸がんワクチン)ダメージへのアプローチ」掲載される

第18回 JPHMA コングレス

「美しい体、美しい心、美しい魂
—それは自然からのプレゼント—」

2018年1月13日~14日
世田谷区民会館

米健康ドキュメンター映画「Real Immunity (真の免疫) (シーラ・ワトコット製作) に由井会長のインタビューが取り上げられる。



第18回大会

第7回日本の農業と食のシンポジウム
「種が大事 日本の食の安全と農林業の未来への
提言」共催。

インド政府C C R H提供ドキュメント映像
「Research in Homeopathy 2017」日本語字幕
版監修し公開。

6月 日本サイ科学会例会にて由井会長がZ E
Nホメオパシー発表

7月 ロンドンの国際セミナー「水科学の新しい
展望 ホメオパシーの証拠？」日本を代表して由
井名誉会長が参加しノーベル省受賞学者のリユッ
ク・モンタニエ博士に質問。

ロンドンにて由井名誉会長が「ZENホメオパシー
によるホメオパシー的予防」発表。



ローマで開催された第
8回伝統医学と鍼灸の
国際カンファレンスに
て由井名誉会長が基調
講演



第19回JPHMAコンGRESS
「体心魂を癒す未来の医学
ZENホメオパシー」

2019年1月5日～6日
世田谷区民会館



第19回大会

6月第8回日本の農業と食のシンポジウム「みんなが幸せになるための農業・食・生き方」共催。

11月タイ王国バンコクで開催された「ホメオパシーと伝統医学の第二回国際コンGRESS(ゼロ分子から高分子へ)」にて、特別ゲストとして招かれ「難病を治癒に導き、靈性を向上させるZENホメオパシー」を発表。



第20回 JPHMA コンGRESS

「体心魂を癒す氣の医学未来の医学
ZENホメオパシーが人類を救う」

2019年12月20日～21日

世田谷区民会館



第20回大会

ZENホメオパシー 海外の反響

2019年

タイ王国バンコクで開催された「ホメオパシーと伝統医学の第二回国際コンGRESS(ゼロ分子から高分子へ)」にて、特別ゲストとして招かれ「難病を治癒に導き、靈性を向上させるZEN



Nホメオパシー」をテーマに発表、主催者や各国からの発表者、参加者から絶賛される。インド、ブラジル、フィリピン、ブラジルの参加者からはぜひ次は各国の学会で発表してほしいとの要望も頂くほど印象的な発表となる。

海外参加者アンケートより一部抜粋

- 由井博士は、ホメオパシー治療において、患者さんにとって実以て必要なすべての要素を含んだ非常に統合的なアプローチを示されました。患者さんにミラクルを起した深遠なアプローチには最大限の敬意を表したいです。最高です。
- 由井寅子博士の畏敬の念を抱かせる治療実践の発表に私達には圧倒されました。ハープを併

用するホメオパシーは、今では、現代西洋医学に匹敵するほどに成長しています。由井博士が発表した治療メソッドは、副作用がなく、子供達に安全に使用することができます。クライアントの心の傾向とその他の付随症状を正確に見極め、適切なレメディーを与えられるならば、彼らはきつと回復するでしょう。

●有意義な発表をありがとうございます。あなたのクライアント観察や賢明なレメディーの選び方は、「医師のオルガノン」のルールに則した最類似の要求を満たしており、大変魅力的で、科学的です。臨床を通じて得た私独特の考えた方や自分自身の個人的信条といった別の理由から、私はあなたのアプローチを支持します。

2018年【イタリアでの発表】

●治療とはまさに貴女のしている事です。治療とはこうあるべきです。魂の治療は必要です。

●素晴らしい発表でした。古くから伝わる伝統的な医療の知識と、新しいリサーチや研究との深いつながりを見せてくれました。一番すごいと思ったのは、間違ったワクチンの影響による子供の態度や、心理的影響が、彼女の新しい治療法とレメディーによって態度が変わったことです。驚きました。

●特に、人を魂、心、身体の統合的に治療するという点において、とても興味深く、有効な講演でした。

●とても興味深い情報が沢山ありました。彼女のチンクチャーについてもっと知りたいです。素晴らしい仕事です！

【イギリスでの発表】

●ルーマニア ホメオパシー ジェモセラピー協会代表 マリナ・シウマス博士

とらこ先生の講義はいつもながら、大変関心深いものでした。私は、臨床ケースと簡明な情報を大変評価しています。また、インナー・チャイルドのビデオを観るのは、大変有益な事でした。私と私の患者がより良く進化する多いなる助けとなります。

●英国ホメオパシー医学協会(HMA)

元会長 ハンス・G・シユラウダー

素晴らしい講義でした。私は、あなた(とらこ先生)がどのように患者の魂をみて、発展させるかについて、実証する方法が好きです。魂や過去世を治療する。これは、私達患者と、そのアンバランスを直すという新しいコンセプトです。貴女の考え、刺激的な1日に感謝します。

●英国認定ホメオパス連合(ARH)会長

カリン・モ

ント とても興味深く、とても刺激的なセミナーでした。バランスの良いプレゼンテーションで、とても良くオーガナイズされています。ありがとうございます！！

●英国ホメオパス、医師ユブラジ・シャルマ

由井名誉会長がホメオパスだけでなく、自ら率先して自然型農業をやり、食を通して素晴らしいエネルギーをこの地上にもたらしている事に敬意と称賛をおくりします。

2017年

【ドイツでの発表:自然農(食)について】

●由井寅子の為した多くの業績、そして彼女のユーモアも印象的だった。ホメオパシーを使った農業、化粧品、レメディーなど、彼女が日本



で作られたものは私たちにとって本物であり、今後ますます発展され、成功されますように。

●とても興味深い講義でした。特に食について、とてもいいアイデアです。私たちが多く学ぶことがありました。ドイツでは大量にファストフードが消費されていて、有機の農産物が普通であるべきなのに例外になってしまっています。私たちドイツ人を触発してくれてありがとうございます。

【ルーマニアでの発表：魂について】

●あなたの話してくれたことすべてに感謝します。魂・心・体を三位一体で治療するZENホメオパシーは、絶対的に私たちに変化をもたらしてくれると確信しました。自分の内に調和と平穏を感じました。そして私も、宇宙的な愛をシェアしたいと思いました。あなたの体験を共有してくださり、ありがとうございます。

●あなたの講義にとっても感謝します。あなたのメッセージは愛と平和、そして人を支える心で溢れていました。私たちの文化は宗教と同様に、強い愛と許しの心が根底にあると思います。将来、ルーマニアと日本の繋がりがより強くなりますように願っております。

●素晴らしい講演をありがとうございます。映像でケースを見せていただいて、とてもよかつ

たです。ホメオパシーは人を治すのではなく、魂を治すのだというのが明らかでした。あなたの患者さんたちの素晴らしい変容を見せていただき、多くの人たちを悟らせる魔法のようなこの仕事を、どうぞ続けてください。

【オランダでの発表：ホメオパシー的予防、インナーチャイルドと病原体の関係】

●ノゾーズ(病原体を希釈振盪したレメディーのこと)について具体的にお聞きし、とても新鮮でした。その人それぞれの治療について生き方、考え方も大切にしたいと思います。本日、寅子先生の講義は腸内微生物、感染体とインナーチャイルドの関係がとても興味深かったです。そのDVDのダイジェストを見せていただき改めて感動がありました。ありがとうございます。

●発表の中で、微生物には感情がある、病原体と同じ感情をもつことで、その病原体に感染し、体内で広がっていくことを知りました。これは偉大なプレゼントです。ほんとうにありがとうございます。私に新しい直感を与えてくれました。あなたが為した日本の偉大な仕事に対して、お祝いを申し上げます。

【イギリスでの発表：インナーチャイルド】

●あなたの発表を大変楽しみにしていました。ZENホメオパシーについては、あなたはインナーチャイルド癒しを統合して、ハーネマンの教えを高いレベルまでもち上げたとは私は感じています。このように講演を直に聴くことによって、私の理解に大きな違いをもたらしてくれました。サンキューベリーマッチ。

●ありがとうございます。とてもインスパイアされました。インナーチャイルド癒しは、精神療法士として人に行っている、私の仕事の一部です。地球の裏側で、この日本のインナーチャイルド癒しについて聞いてよかったです。改めてお礼を申し上げます。

●あなたの講義は私にとって今までで一番素晴らしい、楽しく、そして感動的なものになりました。ホメオパシー療法のひとつとして、インナーチャイルドを加えるということは、私にとって驚きでした。私は毎日インナーチャイルドと向き合っているのです、それがどれほど苦しいことかわかります。しかし、インナーチャイルド癒しは、幸せな人生を手に入れるためには美しく、とても大切な、大切な作業であると思います。ありがとうございます。

緊急開催！種苗法改定反対。自家採種の権利を守ろう！

ご要望が多く再配信を決定いたしました。

当日のスケジュール、申込は豊受自然農のホームページからご確認ください。

オンライン配信参加費無料

再配信

10/11(日) 10/15(木)

10:00~17:15(予定)

日本の農業、食、
未来を考える
シンポジウム



原村政樹
映画監督



中井弘和
静岡大学名誉教授



由井寅子
日本豊受自然農代表



山田正彦
元農林水産大臣



高野弘之
豊受クリニック院長

お問い合わせ
お申し込み

CHhom東京校
TEL: 03-5797-3250 / FAX: 03-5797-3251
〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-2-3 矢藤第3ビル

CHhom札幌校
TEL: 011-633-0577 / FAX: 011-633-0578

CHhom名古屋校
TEL: 052-533-0171 / FAX: 052-533-0172

CHhom大阪校
TEL: 06-6368-5355 / FAX: 06-6368-5354



豊受自然農



豊受自然林

体・心・魂を癒す ZEN ホメオパシーを学びたい方へ

CHhom では来年 2021 年度の CH4 年制・FH1 年生コース
入学生を募集しています。 kongress参加者特典として
10/11 までに入学願書をご提出の方は入学金が無料！

・ CH4 年制コース (入学金 15 万円) ⇒ 無料

・ FH1 年制コース (入学金 5 万円) ⇒ 無料

10/24 CHhom オープンキャンパスを無料開催します

オープンキャンパス

プロフェッショナルホメオパス養成コース



ホメオパシー病理
内分泌①
10/24
10:00~13:30

参加無料



とらこ先生の「コロナを越えてタブーを越えて」
この時代を生き抜く、10の講座

第5回〈医〉

医療の事実を知り
これからの
生き方を
考える



CHhom 東京校
ライブ
& 各校中継 & 自宅受講

10月22日
木 10:00~
12:30

10月31日(土)
自宅受講 再配信
10:00~12:30

これまで多くの人たちが事実を知らないために間違った情報に振り回され、間違った生き方をして苦しんできました。自分の生き方を変えて、より良く幸せに生きたいと願う方へ。今、私たち一人ひとりが目覚めることで未来に繋げることができるはず。そのためにまずは事実を知ることが大切です。そして必ず解決法もあるはず。とらこ先生の10回講座、第5回目は「医：医療の事実を知り、これからの生き方を考える」と題してお届けします。食の問題、メディアの問題、医療の問題、農業の問題、教育の問題などをテーマに、月1回のペースで全10回に渡り行います。皆様のご参加をお待ちしています。

お問い合わせ
お申し込み

一般財団法人 日本ホメオパシー財団認定 ホメオパシー統合医療専門校

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー

CHhom 札幌校

TEL: 011-633-0577 / FAX: 011-633-0578

CHhom 名古屋校

TEL: 052-533-0171 / FAX: 052-533-0172

CHhom 東京校

TEL: 03-5797-3250 / FAX: 03-5797-3251
〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-2-3 矢藤第3ビル

CHhom 大阪校

TEL: 06-6368-5355 / FAX: 06-6368-5354

LINE はじめました。



お友だち登録をお願いします

種苗法「改定」案の廃案を求める請願署名にご協力願います。

日本豊受自然農では、種苗法「改定」案の廃案を求める国会への請願署名活動に協力し、とりまとめ団体として協力しています。ぜひ、署名に、また種苗法「改定」を廃案にするためのあらゆる活動にご協力願います。

(注) 国会請願署名ですので、フルネーム、自筆でお願いします。同居の方もできるだけ自筆で。郵送ください。メール、FAXは無効になります。住所の欄は居住地を。勤め先はNG。少なくとも市・郡から番地、部屋番号まで記載。建物名は不要。「同上」「〃」ではNGとなります。フォーマットは裏面をコピーいただくか、日本豊受自然農ホームページ ブログリンクのPDFファイルをダウンロードして使用ください。

集まりました署名は11月末によびかけ団体農民連に集約し国会に提出されます。

9/21の日本の農業、食、未来を考えるシンポジウム、10月3日(土)、4日(日)のJPHMAコンGRESSなどの機会にも随時署名数を公開・報告していきます。集まった段階で適宜郵送ください。

日本豊受自然農での署名締め切りは、2020年11月27日(金)到着とさせていただきます。
メッセージも歓迎します。

農業法人 日本豊受自然農 東京事務所
TEL 03-5797-3371 info@toyoke.com

農家の自家採種(タネとり)の権利を奪い

国民の食の安全を脅かす 種苗法改定には断固反対します。

農業法人 日本豊受自然農 代表 由井寅子

農家の自家採種(種とり)の権利を奪い、国民の食の安全や日本の食糧安全保障を脅かす種苗法改定法案が国会に提出されようとしております。これは、国民の永久の権利として日本国憲法第25条で保障されている基本的人権の「生存権」を脅かす憲法違反となる法改正であり、この改定に断固反対し、その後ろ盾とされるTPP協定についても差し止めを請求する本訴訟の趣旨に賛同いたします。

▼わたしどもの主張の詳細(日本豊受自然農ホームページ ブログ掲載)

<https://toyoke.com/blog/15469.html>

TPP種子法廃止違憲訴訟 原告追加募集の呼びかけ

TPPは違憲! 多くの方がこの訴訟に関心をもっていただき、現在追加募集している原告の1人に加わっていただくことを呼びかけます。

▼「TPP差し止め・違憲訴訟の会」で検索ください。

<http://tpphantai.com/>

種苗法「改定」案の廃案を求める請願署名

【請願趣旨】

種苗法「改正案」は、先の通常国会で食の安全を願う多くの消費者・農民・市民の反対の声に押され、一度も審議されることなく継続審議となりました。しかし、政府は年内（臨時国会）の成立を狙っています。

種苗法「改正案」は、日本政府も批准する「食料及び農業のための植物遺伝資源に関する国際条約」が規定する農民の「自家増殖の権利」を原則禁止するものです。これは、「主要農作物種子法」廃止と同時に成立した「農業競争力強化支援法」で、公的機関が保有する「種子の知見」を民間企業に提供することを盛り込み、さらに、海外企業が日本での品種登録をしやすいするなど、日本の優良品種を多国籍種子企業に提供するものと言わざるを得ません。

自家増殖を禁止しても、海外流出を防げないことは、農水省自身が認めています。自家増殖禁止は、許諾料や毎年種子を購入せざるを得なくなるなど、農民に負担増を強いることは明らかです。

農水省は、「育成者権が及ぶのは、1割にも満たない登録品種だから影響はない」と言いますが、実際の栽培では、米で3割以上を占めるなど登録品種の利用が増えています。

また、人気の在来種をゲノム編集技術で栄養素強化の性質などを組み込んで、新たな品種として登録し、在来種を企業の特許の権利下に置き、儲けの種にすることを可能にしています。

さらに種子企業は、遺伝子組み換え種子の開発以来、種子の栽培マニュアル（契約）に肥料や農薬などの使用量や使用時期を組み込み、農民の栽培に対する自主的判断を奪う傾向も強めており、栽培面からの企業依存をも狙っています。

このように種苗法「改正案」は、種子の企業支配を拡大させ、品種の多様性と農民の栽培技術を奪い、気候変動などへの対応力を低下させ、日本の多様な食文化を支えてきた農産物の安定生産への消費者の願いにも逆行します。以上の趣旨から下記事項について請願します。

【請願項目】

1. 種苗法「改正」案を廃案にすること。

氏 名	住 所

【よびかけ】 農民運動全国連合会（農民連） 〒173-0025 東京都板橋区熊野町 47-11
Tel: 03-5966-2224 E-mail: info@nouminren.ne.jp

（とりまとめ団体・郵送先） 〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2丁目2-3 矢藤第3ビル
農業法人 日本豊受自然農株式会社 東京事務所

国会請願署名ですので、フルネーム、自筆でお願いいたします。同居の方もご協力いただけましたら幸いです。ご記入いただいた署名は、郵送で上記、日本豊受自然農へ送付いただきますようお願いいたします。メール、FAXは無効となります。

問い合わせ info@toyouke.com TEL: 03-5797-3371

署名フォームは、日本豊受自然農のWebサイト <https://toyouke.com/> からダウンロードできます。

とらこ先生 ZEN ホメオパシー最新刊



由井寅子 著
1,300円+税

信 仰 心 を 目 覚 め さ せ
幸 せ に 生 き る ! 2

ZEN 幸せに生きられる
ZENホメオパシー 6

真に幸せな生き方とは、信仰心と共に
必ずや信仰心を目覚めさせてくれる! BOOK パート2
二〇一九年秋〜冬の全国ツアーを書籍化。
パート1の続編、さらに信仰心を目覚めさせてくれます。

